

(様式第 10)

愛大医総第 0519 号
平成 3

厚生労働大臣 根本 匠 殿

国立大学法人愛媛大学
学長 大橋 裕

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号
氏 名	国立大学法人愛媛大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛媛大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒791-0295 東温市志津川	電話 (089)964-1111
------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
<input checked="" type="checkbox"/> 1 呼吸器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 2 消化器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 3 循環器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 4 腎臓内科
<input checked="" type="checkbox"/> 5 神経内科	<input checked="" type="checkbox"/> 6 血液内科	<input checked="" type="checkbox"/> 7 内分泌内科	<input checked="" type="checkbox"/> 8 代謝内科
<input checked="" type="checkbox"/> 9 感染症内科	<input checked="" type="checkbox"/> 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input checked="" type="checkbox"/> 11 リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 ④心臓外科 ⑤血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 膠原病・リウマチ内科 2 高血圧内科 3 アレルギー内科 4 糖尿病内科 5 老年内科 6 薬物療法内科 7 総合診療科 8 消化器腫瘍外科 9 食道・胃・大腸外科 10 内視鏡外科 11 肝胆膵・移植外科 12 乳腺・内分泌外科 13 形成外科 14 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 15 病理診断科 16 リハビリテーション科 17 臨床検査科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	2床	一床	一床	602床	644床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	221 人	208 人	387.6 人	看護補助者	63 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	5 人	6 人	8.8 人	理学療法士	9 人	臨床検査技師	45 人
薬 剤 師	46 人	0 人	46 人	作業療法士	4 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	6 人	その他	0 人
助 産 師	10 人	0 人	10 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	628 人	21 人	644.2 人	臨床工学士	17 人	医療社会事業従事者	10 人
准看護師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	9 人
歯科衛生士	5 人	0 人	5 人	歯 科 技 工 士	2 人	事 務 職 員	143 人
管理栄養士	8 人	4 人	10.3 人	診療放射線技師	33 人	その他の職員	25 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	49 人	眼 科 専 門 医	12 人
外 科 専 門 医	28 人	耳鼻咽喉科専門医	13 人
精 神 科 専 門 医	11 人	放射線科専門医	16 人
小 児 科 専 門 医	21 人	脳神経外科専門医	10 人
皮 膚 科 専 門 医	10 人	整形外科専門医	16 人
泌尿器科専門医	10 人	麻 醉 科 専 門 医	18 人
産婦人科専門医	10 人	救 急 科 専 門 医	5 人
		合 計	229 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 三浦 裕正) 任命年月日 平成30年4月1日

平成22年4月1日に整形外科の教授に就任後、診療科長として医療安全管理委員会の委員となり、平成27年4月1日に病院長に就任し、平成30年4月1日から2期目を迎えている。病院長に就任後は、医療安全管理委員会の委員長を務めている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	518.3人	13.1人	531.4人
1日当たり平均外来患者数	1,195.2人	56.0人	1,251.2人
1日当たり平均調剤数			726.1剤
必要医師数			124.55人
必要歯科医師数			4.44人
必要薬剤師数			18人
必要(准)看護師数			309人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
			病床数	心電計	有・無
集中治療室	431 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	22床	有・無
			人工呼吸装置	有・無	有・無
			その他の救急生装置	有・無	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 281 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	14床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 20 m ² [共用室の場合] 共用する室名				
化学検査室	302 m ²		(主な設備)	全自動蛍光抗体法分析装置 全自動化学発光免疫測定装置	
細菌検査室	266 m ²		(主な設備)	微生物感受性分析装置 リアルタイム濁度測定装置	
病理検査室	175 m ²		(主な設備)	液状化検体細胞診標本作製装置 IHC/ISH自動染色装置	
病理解剖室	399 m ²		(主な設備)	剖検台、局所排気装置	
研究室	314 m ²		(主な設備)	パソコン、プロジェクター、顕微鏡	
講義室	734 m ²		室数	18室	室数 18室
図書室	99 m ²		室数	1室	室数 1室

- (注)1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	96.0%	逆紹介率	66.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		12,904人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,153人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		740人
	D: 初診の患者の数		13,979人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西村 誠明	愛媛県立中央病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
大熊 伸定			法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
河野 和博	愛媛県難病等患者 団体連絡協議会/ 愛媛県腎臓病患者 連絡協議会		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
公表の方法 愛媛大学ホームページの情報公開のページ内に、「附属病院における医療安全管理について」という事項を設け、監査委員会規程及び委員会名簿 (選定理由を含む) を公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	12人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
インターフェロン α 皮下投与及びジドブシン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0人
放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	2人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 実績なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	91
2	筋萎縮性側索硬化症	40	57	特発性拡張型心筋症	81
3	脊髄性筋萎縮症	8	58	肥大型心筋症	18
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	38
6	パーキンソン病	214	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	68
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	11
11	重症筋無力症	90	66	IgA腎症	11
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	19
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	148	68	黄色靱帯骨化症	46
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	55	69	後縦靱帯骨化症	188
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	87
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	20
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	54	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	49	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	33
23	プリオン病	3	78	下垂体前葉機能低下症	38
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	9	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	12	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	84
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	49
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	14
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	27	89	リンパ管筋腫症	4
35	天疱瘡	58	90	網膜色素変性症	40
36	表皮水疱症	7	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	22	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	71
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	41	95	自己免疫性肝炎	34
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	66
42	結節性多発動脈炎	16	97	潰瘍性大腸炎	162
43	顕微鏡的多発血管炎	70	98	好酸球性消化管疾患	11
44	多発血管炎性肉芽腫症	22	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	218	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	145	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	109	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	57	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	33	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	29	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	17	110	ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	26
113	筋ジストロフィー	24	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	3
117	脊髄空洞症	3	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	12
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シン普森症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	2	203	22q11.2欠失症候群	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	10	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	7	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	4	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	8	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
232	カーニー複合	2	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	7
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	5	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	5
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	40

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	後発医薬品使用体制加算1
歯科外来診療環境体制加算2	病棟薬剤業務実施加算1
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算2
特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1	データ提出加算2
特定機能病院入院基本料 精神病棟 13対1	入退院支援加算1
超急性期脳卒中加算	入院時支援加算
診療録管理体制加算2	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1(25対1)	特定集中治療室管理料4
急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割以上)	特定集中治療室管理料4 小児加算
看護補助加算2	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
療養環境加算	新生児特定集中治療室管理料1
重症者等療養環境特別加算	新生児治療回復室入院医療管理料
無菌治療室管理加算1 (常時 100クラス6以上・空調設備方式要件)	一類感染症患者入院医療管理料
無菌治療室管理加算2 (常時 100クラス7以上)	小児入院医療管理料2(3号館2階)
緩和ケア診療加算	小児入院医療管理料2(1号館6階)
精神科身体合併症管理加算 (精神科病棟届出に同期する)	短期滞在手術等基本料2
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
感染防止対策地域連携加算	
抗菌薬適正使用支援加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
総合評価加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
糖尿病合併症管理料	検体検査管理加算(I)
がん性疼痛緩和指導管理料	検体検査管理加算(IV)
がん患者指導管理料イ	国際標準検査管理加算
がん患者指導管理料ロ	遺伝カウンセリング加算
がん患者指導管理料ハ	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
外来緩和ケア管理料	胎児心エコー法
移植後患者指導管理料-(イ)臓器移植後の場合	時間内歩行試験
移植後患者指導管理料-(ロ)造血幹細胞移植後の場合	ヘッドアップティルト試験
糖尿病透析予防指導管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
ニコチン依存症管理料	皮下連続式グルコース測定
がん治療連携計画策定料	神経学的検査
肝炎インターフェロン治療計画料	ロービジョン検査判断料
薬剤管理指導料	コンタクトレンズ検査料1
医療機器安全管理料1	小児食物アレルギー負荷検査
医療機器安全管理料2	内服・点滴誘発試験
医療機器安全管理料(歯科)	CT透視下気管支鏡検査加算
医療機器安全管理料(歯科)	画像診断管理加算2
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	遠隔画像診断
	ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
在宅患者訪問看護・指導料(3)悪性腫瘍の患者に対する緩和ケア、褥瘡ケア又は人工肛門ケア及び人口膀胱ケアに係る専門の研修を受けた看護師による場合	CT撮影及びMRI撮影
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	冠動脈CT撮影加算
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	心臓MRI撮影加算
持続血糖測定器加算	乳房MRI撮影加算
遺伝学的検査	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	外来化学療法加算1
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	無菌製剤処理料

施設基準の種類	施設基準の種類
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
初期加算	治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	羊膜移植術
初期加算	緑内障手術(5) 緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)
運動器リハビリテーション料(I)	緑内障手術(6) 水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
初期加算	網膜再建術
呼吸器リハビリテーション料(I)	人工中耳植込術
初期加算	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者リハビリテーション料	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術及び人工内耳用材料
歯科口腔リハビリテーション料2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
精神科作業療法	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
認知療法・認知行動療法1	内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	乳がんセンチネルリンパ節加算1
医療保護入院等診療料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	胸腔鏡下弁形成術
(人工腎臓) 導入期加算1	胸腔鏡下弁置換術
CAD/CAM冠	経皮的中隔心筋焼灼術
歯科技工加算	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
皮膚悪性腫瘍切除術におけるセンチネルリンパ節加算	(3) リードレスペースメーカーの場合
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	補助人工心臓
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	小児補助人工心臓

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	輸血管理料 I
内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	麻酔管理料(I)
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(II)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	放射線治療専任加算
腹腔鏡下肝切除術	外来放射線治療加算
生体部分肝移植術	高エネルギー放射線治療
同種死体肝移植術	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	直線加速器による放射線治療
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	保険医療機関間の連携による病理診断
同種死体腎移植術	病理診断管理加算2
生体腎移植術	口腔病理診断管理加算2
膀胱水圧拡張術	クラウン・ブリッジ維持管理料
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	
腹腔鏡下仙骨腔固定術	
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	
胎児胸腔・羊水腔シャント術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
前眼部三次元画像解析	・
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	手術症例など40回+解剖症例12回=52回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 14 例 / 剖検率 9.7 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
潰瘍性大腸炎の発症関連及び予防要因解明を目的とした症例対照研究	三宅 吉博	大学院医学系研究科	2,047,000	○補委 厚生労働省
未就学児の睡眠・情報通信機器使用の実態把握と早期介入に関する研究:保健指導マニュアルの構築	岡 靖哲	医学部附属病院	6,271,000	○補委 厚生労働省
小児慢性特定疾病児童等自立支援員による相談支援に関する研究	檜垣 高史	大学院医学系研究科	10,000,000	○補委 厚生労働省
食餌中脂肪酸組成により誘導されたNASHと肝癌の発生機序の解明と制御法の開発	三宅 映己	医学部附属病院	1,300,000	○補委 日本学術振興会
次世代型最小侵襲鏡視下韧带再建システムの確立と実用化に関する研究	渡邊 誠治	医学部附属病院	1,300,000	○補委 日本学術振興会
成長軟骨板に依存する長管骨発生プロセスの理解:組織系譜解析によるアプローチ	原口 竜摩	大学院医学系研究科	1,170,000	○補委 日本学術振興会
上皮間葉相互転換システムを利用した細胞極性の形成と消失の可逆的制御機構の解析	福田 信治	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	○補委 日本学術振興会
破骨細胞分化因子受容体(RANK)発現制御機構の解析	北澤 理子	医学部附属病院	650,000	○補委 日本学術振興会
雄性生殖体の鞭毛放出とPyGM75の構造機能相関解析	橋 真由美	プロテオサイエンスセンター	1,430,000	○補委 日本学術振興会
認知症予防を目的とした脳萎縮、認知機能検査の縦断研究	伊賀瀬 道也	医学部附属病院	1,560,000	○補委 日本学術振興会
高品位な知識抽出を実現する三階層オントロジーフレームワークの開発	木村 映善	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委 日本学術振興会
ホルマリン固定臓器からの毒物分析法の開発研究	浅野 水辺	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委 日本学術振興会
H. pylori感染におけるパターン認識受容体を介したリンパ球浸潤機序の解明	伊藤 有紀	プロテオサイエンスセンター	1,430,000	○補委 日本学術振興会
C型肝炎ウイルスによる炎症に起因する肝発癌および癌進展機序とPKRの役割	日浅 陽一	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委 日本学術振興会
糖尿病・肥満・脂肪肝を介した肝発癌におけるアディポカインBAFFの役割	阿部 雅則	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委 日本学術振興会
肝硬変の小腸脂質吸収障害に対するBCAA(分枝鎖アミノ酸)の保護作用の解明	竹下 英次	医学部附属病院	1,170,000	○補委 日本学術振興会
白血病に対する細胞免疫療法の最適化に向けて-T細胞ネットワークを輸注する-	藤原 弘	医学部附属病院	1,300,000	○補委 日本学術振興会
自己免疫疾患における抗原特異的免疫抑制療法の確立に向けた研究	長谷川 均	大学院医学系研究科	910,000	○補委 日本学術振興会
うつ病患者における幼少期ストレスと白血球5HTT遺伝子発現とDNAメチル化の関連	伊賀 淳一	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委 日本学術振興会

心臓CTによる冠動脈支配領域の自動抽出と定量評価	倉田 聖	医学部附属病院	1,170,000	○補委	日本学術振興会
新規シミュレーターとWT1ペプチドワクチン併用による肝癌局所療法の開発	廣岡 昌史	医学部附属病院	1,170,000	○補委	日本学術振興会
局所温熱化学療法による原発巣と所属転移リンパ節の同時治療の挑戦	吉田 素平	医学部附属病院	780,000	○補委	日本学術振興会
グリオーマ特異的miRNAの性状解析に基づいた新規治療法および診断マーカーの確立	高野 昌平	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
脳内ネットワークの多面的解析によるてんかん病態の解明: MRI陰性てんかんへの挑戦	國枝 武治	大学院医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
新たな人工耳小骨の開発に関する研究	山田 啓之	医学部附属病院	650,000	○補委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮がんリンパ節転移における遅延型 TGF β の活性化変換機構の解析	矢野 元	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
マイクロバイオームを用いた遅延性難治性皮膚潰瘍に対する新規治療法の開発	森 秀樹	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
サルコペニアの嚥下機能低下様式の解明-筋萎縮分子機構の解明-	加緒里(西窪加緒)	大学院医学系研究科	780,000	○補委	日本学術振興会
関節リウマチに対する次世代免疫治療カルシウム阻害薬の有用性に関する検討	劉 爽	大学院医学系研究科	910,000	○補委	日本学術振興会
二分脊椎神経回路における抑制神経の変化	ーン モハメドシャキ	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
脳虚血におけるインフラマソームを介した自然炎症の関与	朱 鵬翔	大学院医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
急性心筋梗塞における内皮Toll様受容体を介した冠微小循環傷害の分子機序の解明	倉田 美恵	プロテオサイエンスセンター	1,430,000	○補委	日本学術振興会
質量分析による肝炎ウイルス診断法の開発	武森 信暁	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	○補委	日本学術振興会
テロメア合成酵素が大動脈弁狭窄症の発症・進展に与える影響	青野 潤	医学部附属病院	1,690,000	○補委	日本学術振興会
インターロイキン(IL)-18の血圧調節機構の解明	大蔵 隆文	大学院医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
エピジェネティクス規定SNPと環境因子によるレジスチン遺伝子発現調節機構の解明	大澤 春彦	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
先天性血小板減少症の新規原因GPR遺伝子とその機能解析	山之内 純	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス特異的免疫応答の解析	末盛 浩一郎	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
Toll様受容体を介す熱性瘧疾と続発性てんかんの病態解明と新規分子標的療法の開発	福田 光成	医学部附属病院	1,950,000	○補委	日本学術振興会
MLL転座型白血病の白血球幹細胞の機能的マーカー探索と治療応用に向けた基礎的研究	江口 真理子	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
皮膚抗菌ペプチド発現異常の改善を利用した掌蹠膿疱症の治療開発	村上 正基	医学部附属病院	1,170,000	○補委	日本学術振興会

ヒト表皮角化細胞におけるI κ B ζ によるIL-17誘導性遺伝子発現制御の解明	藤山 幹子	大学院医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
神経生理指標を用いた発達障害児の早期兆候に関する研究	堀内 史枝	医学部附属病院	650,000	○補委	日本学術振興会
心停止ドナー肝移植のグラフト機能保護と術前評価:本邦での導入を目指す前臨床研究	高田 泰次	大学院医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症バイオマーカーの探索と病態発症機序の解明	泉谷 裕則	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
サルコペニア肥満に対する筋肉内異所性脂肪沈着に着目した新規治療法・運動療法の探索	茂木 正樹	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
脊髄損傷に対する、肋間神経移行術による脊髄回路再生の研究	森野 忠夫	医学部附属病院	1,820,000	○補委	日本学術振興会
神経障害性疼痛による知覚過敏と骨密度低下に対する運動療法の効果に関する研究	尾形 直則	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
子宮内環境是正への治療的戦略:次世代の生活習慣病発症予防を目指して	杉山 隆	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
顔面神経麻痺後遺症の克服に向けた新規治療法の開発	羽藤 直人	大学院医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮がんリンパ節転移におけるLOXL2の効果	鵜久森 徹	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
ジンセンノサイドRb1及びその化学的誘導体の神経外傷治療効果に関する研究	阪中 雅広	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
脈管内を移動する癌細胞を標的とした転移制御研究	日野 聡史	医学部附属病院	1,950,000	○補委	日本学術振興会
ICTを活用した小児1型糖尿病患者への糖尿病自己管理教育支援の効果	薬師神 裕子	大学院医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
エクソドメイン・シェディングの“ゆらぎ”とがん細胞不均一性の関連解析	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	1,560,000	○補委	日本学術振興会
2光子励起顕微鏡を用いたNASH進行早期診断における客観的指標の確立	山本 晋	大学院医学系研究科	1,040,000	○補委	日本学術振興会
脂腺細胞の分泌膜小胞セボソームの構築と周辺組織への脂質供給機構	永井 彩子	医学部附属病院	1,040,000	○補委	日本学術振興会
エクソーム解析と遺伝子発現解析を利用した精神障害の解析研究	上野 修一	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
超高悪性口腔腫瘍のゲノム・エピゲノム解析	中城 公一	大学院医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
更年期女性の不定愁訴に対する経耳道光照射法の効果の探索	城賀本 晶子	大学院医学系研究科	390,000	○補委	日本学術振興会
新規血管伸長制御因子KCTD proteinの機能解析	坂上 倫久	大学院医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
4次元変分法による形態形成の動力学的機構を逆探索する技法の開発	齋藤 卓	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
CUL3依存的な細胞内膜輸送が制御する血管新生の分子基盤	前川 大志	大学院医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会

グルタミン代謝による活性化T細胞運命決定機構の解明	桑原 誠	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
インスリン糖代謝・動脈硬化因子と認知症リスクの解析	尾原 麻耶	医学部附属病院	650,000	○補委	日本学術振興会
in vivoイメージングを用いたPKR阻害剤の肝細胞癌増殖抑制効果の解明	渡辺 崇夫	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
門脈圧亢進症に伴う脾うっ血評価の有用性の検討と肝硬変モデルラットを用いた病態解明	黒田 太良	大学院医学系研究科	780,000	○補委	日本学術振興会
レジスチンSNP・環境因子相互作用を標的としたインスリン抵抗性疾患の個別化医療	川村 良一	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
化学療法抵抗性白血病を治癒に導く新規細胞免疫療法の開発研究	朝井 洋晶	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
ダウン症候群とアルツハイマー病のAPP遺伝子DNAメチル化ヒドロキシメチル化解析	森 蓉子	医学部附属病院	1,820,000	○補委	日本学術振興会
Elastographyと新たな線維化診断を用いた非侵襲的NASH診断の新展開	小泉 洋平	医学部附属病院	1,040,000	○補委	日本学術振興会
Perfusion CTを用いた新たな虚血スコア算出の試み	城戸 輝仁	大学院医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
脳梗塞辺縁部のNG2陽性マイクログリアの機能解析と脳梗塞治療への応用	松本 調	大学院医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会
真珠腫の術中蛍光診断の開発に関する研究	高木 大樹	大学院医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
Morphometrical and quantitative transcriptome analyses of C-C chemokine receptor 5 in functional structure of osteoclasts	李 智媛	プロテオサイエンスセンター	1,950,000	○補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における血清Exosomal miRNAの発現機能解析	徳善 紀彦	医学部附属病院	1,950,000	○補委	日本学術振興会
在宅療養中の高齢糖尿病患者の生活と支援システムに関する研究	寺尾 奈歩子	大学院医学系研究科	520,000	○補委	日本学術振興会
経管栄養患者の下痢症状を改善するためのケアプログラムの開発とその効果	小岡 亜希子	大学院医学系研究科	780,000	○補委	日本学術振興会
ラットによる間歇型一酸化炭素中毒の病態解明及び治療の究明	越智 紳一郎	大学院医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会
SGA性低身長を呈するミトコンドリア呼吸鎖異常症での脂肪酸輸送体FATP3の役割	徳澤 佳美	大学院医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会
Cadaver(ご遺体)と大型動物を用いた腹腔鏡下上方照明システムの前臨床的研究	高井 昭洋	医学部附属病院	650,000	○補委	日本学術振興会
ヒストン脱メチル化制御を介したメモリーCD8 T細胞分化メカニズムの解明	山田 武司	医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
一般住民において、レジスチン遺伝子多型が耐糖能異常に及ぼす影響とメカニズムの解明	高田 康德	医学系研究科	1,950,000	○補委	日本学術振興会
2型糖尿病における夜間の生活行動・睡眠状況と糖尿病合併症に関する臨床疫学研究	古川 慎哉	医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会

伝統薬物成分の免疫機能と腫瘍環境制御による抗腫瘍・抗転移効果とその作用機構	木村 善行	医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
アルツハイマー病のインスリンシグナル障害とアポモルフィン・インスリン複合治療	大八木 保政	医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
消化管ホルモン受容体相互連関および機能発現機構の解析	松浦 文三	医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
肥大型心筋症の心不全発症メカニズム-トランスクリプトーム網羅解析からの検討-	池田 俊太郎	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
新規キメラ型抗原受容体遺伝子を用いる成人T細胞白血病に対する免疫療法	谷本 一史	医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
NICU入室新生児におけるビフィズス菌製剤の投与による正常腸内細菌叢の獲得	田内 久道	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
小児白血病の前白血病幹細胞の同定と標的治療の開発の試み	江口 峰斉	医学部附属病院	2,340,000	○補委	日本学術振興会
光干渉断層法を用いた先天性心疾患患者の狭窄性病変に対する組織学的診断法の確立	高田 秀実	医学系研究科	2,210,000	○補委	日本学術振興会
心房細動のバイオマーカーとしてのPETおよび半導体SPECTの有用性の検討	宮川 正男	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
軸索誘導因子セマフォリンによる薬剤抵抗性乳癌を標的にした新規治療戦略	亀井 義明	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
R-Spondin 3による心停止後ドナー肺の虚血再灌流障害の抑制と機序解明	岡崎 幹生	医学部附属病院	1,820,000	○補委	日本学術振興会
肺がんにおけるNEDD8を介したPD-L1発現制御機構の解明とその臨床応用	佐野 由文	医学系研究科	1,820,000	○補委	日本学術振興会
脳内レニン・アンジオテンシン系保護軸活性化による脳保護作用の解明	岩波 純	医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
梗塞巣への細胞浸潤を促進して脳梗塞を治す	久門 良明	医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
呼吸終末陽圧負荷による輸液過剰の検出アルゴリズムの開発	池宗 啓蔵	医学部附属病院	1,950,000	○補委	日本学術振興会
一過性の脳虚血障害が脳内アミロイドβ代謝と認知症発症に与える影響についての検討	関 莉娟	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
前立腺がん細胞におけるCUL3システム破綻の解明と新規治療標的の創出	菊川 忠彦	医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会
角膜実質再生を目指した角膜線維芽細胞移植のバイオイメージング解析	林 康人	医学部附属病院	1,950,000	○補委	日本学術振興会
マウス表皮細胞から角膜上皮細胞への形質転換における上皮-実質間相互作用の検討	白石 敦	医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
三次元培養皮膚におけるエクリン汗腺の再現	亀田 健治	学術支援センター	1,170,000	○補委	日本学術振興会
脊髄損傷急性期の積極的平温療法は、二次損傷による神経学的予後の悪化を防ぐか	竹葉 淳	医学系研究科	1,560,000	○補委	日本学術振興会
一酸化炭素中毒による遅発性脳症発症の分子メカニズム解明のための研究	萬家 俊博	医学系研究科	1,690,000	○補委	日本学術振興会

幼児期及び学童期における齟齬リスク要因の解明を目指した出生前コホート研究	田中 景子	医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感覚を高める看護実践モデルの開発	山内 栄子	医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
生殖補助医療を受けた女性の妊娠初期の適応を支援するオンラインプログラムの効果	崎山 貴代	医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
高齢者の潜在する排泄機能に気づく経験を活用した看護・介護職教育プログラムの開発	陶山 啓子	医学系研究科	780,000	○補委	日本学術振興会
認知症の同意・判断能力の簡易判定法の確立	谷向 知	医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
発達障害児の親のメンタリング過程により構築する包括的ケアプログラムの開発	西嶋 真理子	医学系研究科	1,040,000	○補委	日本学術振興会
難病から『インフラマソーム病』を独立させ、分子標的に基いた診断の再編成を加速する	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	3,900,000	○補委	日本学術振興会
クロマチン情報に基づく新規骨粗鬆症治療標的分子の解析	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	2,600,000	○補委	日本学術振興会
核ラミナによるクロマチン構造変化を介したT細胞老化制御機構の解明	鈴木 淳平	医学系研究科	2,340,000	○補委	日本学術振興会
睡眠障害の治療が就労状況に及ぼす影響に関する縦断的研究	淡野 桜子	医学部附属病院	2,340,000	○補委	日本学術振興会
サルコペニア、フレイル、動脈硬化、インスリン代謝と認知機能の相関解析	越智 雅之	医学部附属病院	1,040,000	○補委	日本学術振興会
高齢者神経変性疾患の血管内皮機能の解析－血管超音波を用いた検討－	岡田 陽子	医学部附属病院	2,210,000	○補委	日本学術振興会
GLP-2を介した食餌性脂肪酸の吸収変化と非アルコール性脂肪肝炎の病態への関与	宇都宮 大貴	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会
細胞外ATPによる肝星細胞の活性化、肝線維化進展機序の解明	吉田 理	医学部附属病院	2,210,000	○補委	日本学術振興会
流体力学の理論と実験的手法を用いた冠血流動態の解析	清家 史靖	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
Cキナーゼ阻害剤で誘導した免疫寛容樹状細胞を用いた抗原特異的免疫抑制療法の研究	松本 卓也	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
定量プロテオミクスによるANCA関連血管炎の活動性／臓器障害マーカーの同定と解析	石崎 淳	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会
重症薬疹の早期診断法の開発	難波 千佳	医学部附属病院	2,340,000	○補委	日本学術振興会
白血球のDRD2メチル化率を用いたバイオマーカーの探索	吉野 祐太	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
アルツハイマー型認知症の病態とABCA7遺伝子の役割	山崎 聖広	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
思春期における発達障害とインターネット依存の関連と介入効果の検討	河邊 憲太郎	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会
乳癌細胞の不均一性を制御するCullin3ユビキチンリーガーゼ複合体の同定と解析	村上 朱里	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会

腹部大動脈瘤発症におけるLOX-1の役割についての検討	末廣 千佳	医学部附属病院	1,560,000	○補委	日本学術振興会
IL3とGM-CSFの併用投与による脳梗塞病態の改善:脳と骨髄をつなぐ研究	一ドリ エمامツセル	医学系研究科	2,340,000	○補委	日本学術振興会
神経因性疼痛モデル脊髄前角と後角で異なるマイクログリアの反応:神経保護性と傷害性	西原 佑	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
婦人科がんを標的とした細胞内グルタミン代謝調節によるCD8T細胞の抗腫瘍活性増強	安岡 稔晃	医学部附属病院	2,470,000	○補委	日本学術振興会
急性病態における血液凝固線溶動態の解明と治療戦略の構築	松本 紘典	医学部附属病院	2,080,000	○補委	日本学術振興会
エピゲノム制御因子 Uhrf1 の関節リウマチ病態における機能解析	佐伯 法学	学術支援センター	1,950,000	○補委	日本学術振興会
テラヘルツ計測、代謝物計測を応用した腸管虚血壊死の新たな早期診断確率	佐藤 格夫	医学系研究科	650,000	○補委	日本学術振興会
革新的イメージング技術とがんモデルメダカを駆使したがん転移研究	今村 健志	大学院医学系研究科	29,380,000	○補委	日本学術振興会
Pf75を標的とする新規熱帯熱マラリア伝搬阻止ワクチンの開発	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	5,460,000	○補委	日本学術振興会
新規遺伝子変異T細胞による難治性白血病の治療を目指した治療戦略	安川 正貴	大学院医学系研究科	5,590,000	○補委	日本学術振興会
運動器疾患に対するエピジェネティック治療標的の探索	今井 祐記	プロテオサイエンスセンター	5,330,000	○補委	日本学術振興会
がん骨転移と骨代謝を繋ぐ細胞間相互作用解明のための革新的イメージングシステム開発	今村 健志	大学院医学系研究科	4,810,000	○補委	日本学術振興会
睡眠教育パッケージの開発と教育現場における改善効果の検証	岡 靖哲	医学部附属病院	4,290,000	○補委	日本学術振興会
血管新生におけるCUL3システムネットワークの解明	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	4,680,000	○補委	日本学術振興会
非定型的DNAメチル化修飾を指標とする腫瘍初期病変の同定	北澤 荘平	大学院医学系研究科	5,070,000	○補委	日本学術振興会
スポロゾイトの肝細胞侵入におけるRON3の作用機序の解明とレセプター同定	石野 智子	プロテオサイエンスセンター	5,070,000	○補委	日本学術振興会
網羅的分子解析による口腔癌複合免疫化学療法の開発	浜川 裕之	大学院医学系研究科	2,080,000	○補委	日本学術振興会
新規三日熱マラリアワクチン候補抗原(PvGs24)の伝搬阻止効果の解析	鳥居 本美	プロテオサイエンスセンター	5,590,000	○補委	日本学術振興会
医療応用のための非線形分光・イメージング技術を基盤とした顕微鏡システムの開発	大嶋 佑介	大学院医学系研究科	9,360,000	○補委	日本学術振興会
T細胞代謝リプログラミングによる免疫応答制御機構の解明	山下 政克	大学院医学系研究科	7,540,000	○補委	日本学術振興会
幼児期行動的問題に関する遺伝要因と環境要因の交互作用解明を目的とした疫学研究	三宅 吉博	大学院医学系研究科	5,850,000	○補委	日本学術振興会

トルコと日本の自己炎症疾患発症責任分子複合体を活性化する生体・環境因子の比較調査	増本 純也	プロテオサイエンスセンター	6,630,000	○補委	日本学術振興会
途上国における子宮内胎児死亡対策の実証研究	岡 靖哲	医学部附属病院	8,060,000	○補委	日本学術振興会
細胞老化によるネオ・セルフ生成の分子機構解明	山下 政克	大学院医学系研究科	3,900,000	○補委	日本学術振興会
多彩な反応性を保持するがん特異的キメラ抗原受容体レパトアの作成	越智 俊元	医学系研究科	1,300,000	○補委	日本学術振興会
ドキシサイクリン誘導性SV40T抗原導入細胞を用いた結膜三次元培養モデルの作製	三谷 亜里沙	医学部附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
口腔癌 liquid biopsy における exosomal RNA の有用性	浜川 知大	医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
ヒト乳腺オルガノイド培養を用いた細胞極性制御機構の解析と乳がん治療への応用	福田 尚代	医学系研究科	1,430,000	○補委	日本学術振興会
日本人2型糖尿病患者における血清脂質と糖尿病腎症に関する他施設共同疫学研究	仙波 英徳	医学部附属病院	1,430,000	○補委	日本学術振興会
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に対する診断・治療・予防法の開発及びヒトへの感染リスクの解明等に関する研究	安川 正貴	医学系研究科	17,000,100	補委	日本医療研究開発機構
マスターモデュレーターとしてのCUL3システムを標的とした血管新生制御法の開発とがん治療応用	東山 繁樹	プロテオサイエンスセンター	22,980,000	○補委	日本医療研究開発機構
国内流行HIV 及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	高田 清式	医学部附属病院	600,000	○補委	日本医療研究開発機構
				補委	

計 165

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Mori, S., Yamanouchi, J., Okamoto, K., et al.	血液・免疫・感染症内科学	A novel frameshift mutation leading to inherited type I antithrombin deficiency.	Blood Coagul Fibrinolysis. 28(2): 189-192, 2017	Original Article
2	Fujiwara, H., Fuji, S., Wake, A., et al.	血液・免疫・感染症内科学	Dismal outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for relapsed adult T-cell leukemia/lymphoma, a Japanese	Bone Marrow Transplant. 52(3): 484-488, 2017	Original Article
3	Ishizaki, J., Takemori, A., Suemori, K., et al.	血液・免疫・感染症内科学	Targeted proteomics reveals promising biomarkers of disease activity and organ involvement in antineutrophil cytoplasmic antibody-associated	Arthritis Res Ther. 19(1): 218, 2017	Original Article
4	Tawara, I., Kageyama, S., Miyahara, Y., et al.	血液・免疫・感染症内科学	Safety and persistence of WT1-specific T-cell receptor gene-transduced lymphocytes in patients with AML and MDS.	Blood. 130(18): 1985-1994, 2017	Original Article
5	Takemoto, S., Ebara, M., Hasebe, S., et al.	血液・免疫・感染症内科学	A study on the colonization of Pneumocystis jirovecii among outpatients during cancer chemotherapy and among healthy	J Infect Chemother. 23(11): 752-756, 2017	Original Article
6	Shima H, Kiyokawa N, Mihar M, et al.	小児科学	Flow cytometric analysis as an additional predictive tool of treatment response in children with chronic-phase CML treated with imatinib.	Pediatr Blood Cancer Sep;64(9). doi: 10.1002/pbc.26478. Epub 2017 Feb 24.	Original Article
7	Hori M, Yasumi T, Shimodera S, et al.	小児科学	A CD57+ CTL degranulation assay effectively identifies familial hemophagocytic lymphohistiocytosis type 3 patients.	J Clin Immunol 37: 92-99	Original Article
8	Takashima T, Okamura M, Yeh T, et al.	小児科学	Multicolor flow cytometry for the diagnosis of primary immunodeficiency diseases.	J Clin Immunol 37: 486-495	Original Article
9	Ichimura T, Yoshida K, Okuno Y, et al.	小児科学	Diagnostic challenge of Diamond-Blackfan anemia in mothers and children by whole-exome sequencing.	Int J Hematol 105: 515-520	Original Article
10	Jogamoto T, Yamamoto Y, Fukuda M, et al.	小児科学	Add-on stiripentol elevates serum valproate levels in patients with or without concomitant topiramate therapy.	Epilepsy Res 130, 7-12	Original Article
11	Saito I, Maruyama K, Eguchi E, et al.	糖尿病内科学	Low Heart Rate Variability and Sympathetic Dominance Modifies the Association Between Insulin Resistance and Metabolic Syndrome - The Toon	Circ J. 2017 Sep 25;81(10):1447-1453.	Original Article
12	Onuma H, Tabara Y, Kawamura R, et al.Osawa H.	糖尿病内科学	Dual Effects of a RETN Single Nucleotide Polymorphism (SNP) at -420 on Plasma Resistin: Genotype and DNA Methylation.	J Clin Endocrinol Metab. 2017 Mar 1;102(3):884-892.	Original Article
13	Noumi Y, Kawamura R, Tabara Y, et al.	糖尿病内科学	An inverse association between serum resistin levels and n-3 polyunsaturated fatty acids intake was strongest in the SNP-420 G/G genotype in the	Clin Endocrinol 2018; 88: 51-57.	Original Article
14	Mise A, Yoshino Y, Yamazaki K, et al.	精神神経科学	TOMM40 and APOE Gene Expression and Cognitive Decline in Japanese Alzheimer's Disease Subjects.	Journal of Alzheimer's Disease 60: 1107-1117, 2017	Original Article
15	Yoshino Y, Ozaki Y, Yamazaki K, et al.	精神神経科学	DNA Methylation Changes in Intron 1 of Triggering Receptor Expressed on Myeloid Cell 2 in Japanese Schizophrenia Subjects.	Frontiers in Neuroscience. 11: 275, 2017	Original Article
16	Takada Y, Kaido T, Shirabe K, et al.	肝胆膵・乳腺外科学	Significance of preoperative fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in prediction of tumor recurrence after liver transplantation	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2017;24(1):49-57	Original Article

17	Murakami M, Kameda K, Tsumoto H, et al.	皮膚科学	TLN-58, an Additional hCAP18 Processing Form, Found in the Lesion Vesicle of palmoplantar Pustulosis in the Skin	Journal of Invest. Dermatol.;137(2): 322-331, Feb. 2017	Original Article
18	Igawa S, Kishibe M, Minami-Hori M, et al.	皮膚科学	Incomplete KLK7 Secretion and Upregulated LEKTI Expression Underlie Hyperkeratotic Stratum Corneum in Atopic Dermatitis	Journal of Invest. Dermatol.;137(2): 449-456, Feb. 2017	Original Article
19	Matsudate Y, Naruto T, Hayashi Y, et al.	皮膚科学	Targeted exome sequencing and chromosomal microarray for the molecular diagnosis of nevoid basal cell carcinoma syndrome	Journal of Dermatol. Sci.;86(3): 206-211, Jun. 2017	Original Article
20	Shiraishi K, Sayama K.	皮膚科学	Atypical case of telangiectatic metastatic breast carcinoma presenting as purpura.	JAAD Case Rep.18;3(4):316-318. 2017 Jul.	Original Article
21	Watanabe S, Ohnishi T, Yuasa A, et al.	皮膚科学	The first nationwide surveillance of antibacterial susceptibility patterns of pathogens isolated from skin and soft-tissue infections in dermatology	J Infect Chemother; 23(8):503-511, Aug. 2017	Original Article
22	Miyoshi K, Okura T, Tanino A, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Usefulness of the renal resistive index to predict an increase in urinary albumin excretion in patients with essential hypertension.	J Hum Hypertens 2017;31:66-69.	Original Article
23	Seike F, Uetani T, Nishimura K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Intracoronary Optical Coherence Tomography-Derived Virtual Fractional Flow Reserve for the Assessment of Coronary Artery Disease.	Am J Cardiol. 2017;120:1772-1779.	Original Article
24	Seike F, Uetani T, Nishimura K, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Intravascular Ultrasound-Derived Virtual Fractional Flow Reserve for the Assessment of Myocardial Ischemia	Circ J 2017. 23;82(3):815-823	Original Article
25	Kawakami H, Nagai T, Saito M, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	Clinical Significance of Atrial High-rate Episodes for Thromboembolic Events in Japanese Population.	Heart Asia 2017. 9;9(2):e010954.	Original Article
26	Kawakami H, Ogimoto A, Tokunaga N, et al.	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	A Novel Truncating LMNA Mutation in Patients with Cardiac Conduction Disorders and Dilated Cardiomyopathy.	International Heart Journal. Int Heart J. 2018 May 30;59(3):531-541	Original Article
27	H Tao, J Soh, H Yamamoto, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Restrictive ventilatory impairment is associated with poor outcome in patients with cT1aN0M0 peripheral squamous cell carcinoma of the lung.	J Thorac Dis. 2017 Nov;9(11):4325-4335.	Original Article
28	A Kojima, F Shikata, T Okamura, et al.	心臓血管・呼吸器外科学	Refractory ventricular fibrillations after surgical repair of atrial septal defects in a patient with CACNA1C gene mutation - case report.	J Cardiothorac Surg. 2017 Dec 19;12(1):118.	Original Article
29	Kaminota T, Yano H, Shiota K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Elevated Na ⁺ /H ⁺ exchanger-1 expression enhances the metastatic collective migration of head and neck squamous cell carcinoma cells.	Biochem Biophys Res Commun 486(1):101-107, 2017	Original Article
30	Kitoh R, Nishio SY, Ogawa K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Nationwide epidemiological survey of idiopathic sudden sensorineural hearing loss in Japan.	Acta Otolaryngol 137(sup565):S8-S16, 2017	Original Article
31	Umesawa M, Kobashi G, Kitoh R, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Relationships among drinking and smoking habits, history of diseases, body mass index and idiopathic sudden sensorineural hearing loss in Japanese	Acta Otolaryngol 137(sup565):S17-S23, 2017	Original Article
32	Okada M, Hato N, Nishio SY, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	The effect of initial treatment on hearing prognosis in idiopathic sudden sensorineural hearing loss: a nationwide survey in Japan.	Acta Otolaryngol 137(sup565):S30-S33, 2017	Original Article
33	Sato H, Kuwashima S, Nishio SY, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Epidemiological survey of acute low-tone sensorineural hearing loss.	Acta Otolaryngol 137(sup565):S34-S37, 2017	Original Article
34	Imai H, J Miyawaki J, Kamada T, et al.	整形外科	Preoperative planning and operative techniques of the shorter tapered stem compared to the metaphyseal fit stem in cementless Total Hip Arthroplasty	The Journal of Arthroplasty 2017 32(1) 1192-1199	Original Article
35	Kidani T, Yasuda R, Miyawaki J, et al.	整形外科	Bisphenol A Inhibits Cell Proliferation and Reduces the Motile Potential of Murine LM8 Osteosarcoma Cells	Anticancer Res. 2017 37(4) 1711-1722	Original Article

36	Hino K, Kutsuna T, Watomori K, et al.	整形外科科学	Varus-valgus stability at 90° flexion correlates with the stability at midflexion range more widely than that at 0° extension in posterior-stabilized	Arch Orthop Trauma Surg 2017.10 1429-1434	Original Article
37	Hino K, Kutsuna T, Oonishi Y, et al.	整形外科科学	Assessment of the midflexion rotational laxity in posterior-stabilized total knee arthroplasty.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. Nov;25(11):3495-3500	Original Article
38	Yamaoka S, Oshima Y, Horiuchi H, et al.	整形外科科学	Altered Gene Expression of RNF34 and PACAP Possibly Involved in Mechanism of Exercise-Induced Analgesia for Neuropathic Pain in Rats.	Int J Mol Sci. 2017 13 E1962	Original Article
39	Fukuyama N, Kurata A, Kawaguchi N, et al.	放射線医学	Two-Phase Contrast Injection Protocol for Pediatric Cardiac Computed Tomography in Children with Congenital Heart Disease.	Pediatr Cardiol. 2017 Dec 6. doi: 10.1007/s00246-017-1782-7.	Original Article
40	Hyodo T, Yada N, Hori M, et al.	放射線医学	Multimaterial Decomposition Algorithm for the Quantification of Liver Fat Content by Using Fast-Kilovolt-Peak Switching Dual-Energy CT: Clinical	Radiology. 2017;283(1):108-18.	Original Article
41	Hyodo T, Hori M, Lamb P, et al.	放射線医学	Multimaterial Decomposition Algorithm for the Quantification of Liver Fat Content by Using Fast-Kilovolt-Peak Switching Dual-Energy CT:	Radiology. 2017;282(2):381-9.	Original Article
42	Kawaguchi N, Okayama H, Kawamura G, et al.	放射線医学	Clinical usefulness of coronary flow reserve ratio for the detection of significant coronary artery disease on ¹³ N-ammonia positron emission	Circ J. 2017 Sep 26.	Original Article
43	Kido To, Kido Te, Nakamura M, et al.	放射線医学	Assessment of Left Ventricular Function and Mass on Free-Breathing Compressed Sensing Real-Time Cine Imaging.	Circ J. 2017; 81: 1463-1468.	Original Article
44	Sento S, Kitamura N, Yamamoto T, et al.	口腔顎顔面外科学	Palonosetron prevents highly emetogenic chemotherapy-induced nausea and vomiting in oral cancer patients.	Anticancer Res. 37(12):6977-6981, 2017	Original Article
45	Goda H, Okamoto M, Nakashiro K, et al.	口腔顎顔面外科学	Prognostic impact of preoperative serum interleukin-6 levels in patients with early-stage oralsquamous cell carcinoma, defined by sentinel node	Oncol Lett. 14(6):7965-7969, 2017	Original Article
46	Hino S, Tanaka H, Hamakawa H.	口腔顎顔面外科学	Multiple jaw cysts and ectopic calcification.	BMJ Case Rep. doi:10.1136/bcr-2017-219344, 2017	Original Article
47	Utsunomiya H, Yamamoto Y, Takeshita E, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Upregulated absorption of dietary palmitic acids with changes in intestinal transporters in non-alcoholic steatohepatitis (NASH).	J Gastroenterol. 52(8):940-954, 2017.	Original Article
48	Ohno Y, Koizumi M, Nakayama H, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Downregulation of ANP32B exerts anti-apoptotic effects in hepatocellular carcinoma.	PLoS One. 12(5):e0177343, 2017.	Original Article
49	Hirooka M, Koizumi Y, Miyake T, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Nonalcoholic fatty liver with a hepatic arterial buffer response strongly associated with future metabolic disease.	HepatoL Commun. 1(7):623-633, 2017.	Original Article
50	Miyake T, Hirooka M, Yoshida O, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Differences in the risk of fatty liver for onset of impaired fasting glucose according to baseline plasma glucose levels.	J Gastroenterol. 52(2):237-244, 2017.	Original Article
51	Watanabe T, Tokumoto Y, Joko K, et al.	消化器・内分泌・代謝内科学	Predictors of treatment efficacy and ALT non-normalization with sofosbuvir/ribavirin therapy for patients with hepatitis C virus	J Med Virol. 89(9):1567-1573, 2017.	Original Article
52	Maeda T, Shimo Y, Shih-Wei Chiu, et al.	薬物療法・神経内科学	Clinical manifestations of nonmotor symptoms in 1021 Japanese Parkinson's disease patients from 35 medical centers.	Parkinsonism and Relat Disord.2017, 38:54-60.	Original Article
53	Mizuno Y, Hattori N, Kondo T, et al.	薬物療法・神経内科学	A Randomized Double-Blind Placebo-Controlled Phase III Trial of Selegiline Monotherapy for Early Parkinson Disease.	Clin Neuropharmacol.2017, 40(5):201-207.	Original Article
54	Miyae N, Tada S, Ando R, et al.	薬物療法・神経内科学	DAT SPECT may have diagnostic value in prodromal SCA2 patients with parkinsonism.	Parkinsonism Relat Disord.2017, 44:137-141.	Original Article

55	Miyae N, Tada S, Ando R, et al.	薬物療法・神経内科学	Cascade Stomach Associated With Delayed-on or No-on Phenomenon in a Patient With Parkinson's Disease.	Mov Disord.2017, 32:1492-1493.	Original Article
56	Iwaki H, Ando R, Miyae N, et al.	薬物療法・神経内科学	One year safety and efficacy of inosine to increase the serum urate level for patients with Parkinson's disease in Japan.	J Neurol Sci.2017,383:75-78.	Original Article
57	Kamimoto Y, Wada H, Ikejiri M, et al.	産婦人科学	Hyperfibrinogenemia and the α -fibrinogen Thr312Ala polymorphism may be risk factors for early pregnancy loss.	Clin Appl Thromb Hemost. 23:52-57,2017	Original Article
58	Iwama N, Sugiyama T, Metoki H, et al.	産婦人科学	Maternal body mass index is a better indicator of large-for-gestational-age infants compared with a 75-g oral glucose tolerance test in early	Diabe Res Clin Pract 132:10-18,2017	Original Article
59	Sato T, Sugawara J, Aizawa N, et al.	産婦人科学	Longitudinal changes of ocular blood flow using laser speckle flowgraphy during normal pregnancy.	PLoS One 12:e0173127,2017	Original Article
60	Uchikura Y, Matsubara K, Muto Y, et al.	産婦人科学	Extranuclear Translocation of High-Mobility Group A1 Reduces the Invasion of Extravillous Trophoblasts Involved in the Pathogenesis of	Reprod Sci 24;1630-1638,2017	Original Article
61	Morikawa M, Sugiyama T, Sagawa N, et al.	産婦人科学	Perinatal mortality in Japanese women diagnosed with gestational diabetes mellitus and diabetes mellitus.	J Obstet Gynecol Res 43;1700-1707,2017	Original Article
62	Igase K, Igase M, Matsubara I, et al.	脳神経外科学	Mismatch between TOF MR Angiography and CT Angiography of the Middle Cerebral Artery may be a Critical Sign in Cerebrovascular	Yonsei Med J. (in press)	Original Article
63	Igase M, Igase K, Tabara Y, et al.	脳神経外科学	Cross-sectional study of equal producer status and cognitive impairment in older adults.	Geriatr Gerontol Int. 17: 2103-8, 2017	Original Article
64	Igase M, Ohara M, Igase K, et al.	脳神経外科学	Skin Autofluorescence Examination as a Diagnostic Tool for Mild Cognitive Impairment in Healthy People.	J Alzheimers Dis. 55:1481-7, 2017	Original Article
65	Watanabe S, Kuwabara Y, Suehiro S, et al.	脳神経外科学	Valproic acid reduces hair loss and improves survival in patients receiving temozolomide-based radiation therapy for high-grade glioma.	Eur J Clin Pharmacol 73 (3): 357-363, 2017	Original Article
66	Fujiwara, Y., R. Matsumoto, T. Nakae, et al.	脳神経外科学	Neural pattern similarity between contra- and ipsilateral movements in high-frequency band of human electrocorticograms.	Neuroimage 147: 302-313.	Original Article
67	Hirakawa M1, Nishihara T, Nakanishi K, et al.	麻酔・周術期学	Perioperative management of a patient with Coffin-Lowry syndrome complicated by severe obesity: A case report and literature review	Medicine 2017;96:9026	Original Article
68	Takeba J, Umakoshi K, Kikuchi S, et al.	救急医学・救急航空医療学講座	Accuracy of screw fixation using the O-arm® and StealthStation® navigation system for unstable pelvic ring fractures.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2017. ahead of print, Epub, 2017 Jun 8th.	Original Article
69	Otake K, Sato N, Kitaguchi A, et al.	救急医学・救急航空医療学講座	The Effect of Lactoferrin and Pepsin-Treated Lactoferrin on IEC-6 Cell Damage Induced by Clostridium Difficile Toxin B	Shock. 2017 e-pub ahead	Original Article
70	Matsumoto H, Annen S, Umakoshi K, et al.	救急医学・救急航空医療学講座	Sudden cerebral depression detected by bispectral index monitoring in cryptococcal meningitis with elevated near-fatal cerebrospinal fluid pressure.	Acute Med Surg. 2017.4. 338-340	Original Article
71	Yohei Okada, Wataru Ishii, Norio Sato, et al.	救急医学・救急航空医療学講座	Management of pediatric 'cannot intubate, cannot oxygenate'	Acute Medicine & Surgery 2017; 4: 462-466.	Original Article
72	Moore HB, Winfield RD, Aibiki M, Neal MD.	救急医学・救急航空医療学講座	Is Coagulopathy an Appropriate Therapeutic Target During Critical Illness Such as Trauma or Sepsis?	Shock.2017.48. 159-167. [Epub ahead of print].	Original Article
73	Kimura E, Hasegawa S, Chida K, Gamo S, et al.	医療情報学	Evaluation of the Anonymity and Utility of De-Identified Clinical Data Based on Japanese Anonymization Criteria.	Stud Health Technol Inform.2017;245:1303.	Original Article

74	Watababe H, Fujiwara T, Kobayashi N:	医学教育学	A year-round evidence-based medicine-learning course organized by medical students in Ehime University.	Journal of General and Family Medicine, 18(4):175-179, 2017	Original Article
75	Ohara M, Kohara K, Okada Y, et al.	医学教育学	Office-based simple frailty score and central blood pressure predict mild cognitive impairment in an apparently healthy Japanese population: J-SHIPP	Scientific Report, 13(7):46419, 2017	Original Article
76	Kohara K, Okada Y, Ochi M, et al.	医学教育学	Muscle mass decline, arterial stiffness, white matter hyperintensity, and cognitive impairment: Japan Shimanami Health Promoting Program study.	Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle, 8(4):557-566, 2017	Original Article
77	Nakamura N, Ohyagi Y, Yanagihara YT, et al.	老年・神経・総合診療内科学	Apomorphine therapy for neuronal insulin resistance in a mouse model of Alzheimer's disease.	J Alzheimers Dis 58: 1151-1161, 2017.	Original Article
78	Mano T, Nagata K, Nonaka T, et al.	老年・神経・総合診療内科学	Neuron-specific methylome analysis reveals epigenetic regulation and tau-related dysfunction of BRCA1 in Alzheimer's disease.	Proc Natl Acad Sci USA 114: E9645-E9654, 2017.	Original Article
79	Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, et al.	地域医療学講座	Interaction between gender and uric acid on hemoglobin A1c in community-dwelling persons.	J Endocrinol Invest. 2017 Sep 25.	Original Article
80	Kawamoto R, Ninomiya D, Senzaki K, et al.	地域医療学講座	Mildly elevated serum total bilirubin is negatively associated with hemoglobin A1c independently of confounding factors among community-dwelling	J Circ Biomark. 2017; 6: 1849454417726609.	Original Article
81	Kawamoto R, Ninomiya D, Senzaki K, Kasai Y, Kusunoki T.	地域医療学講座	Interactive association of serum uric acid and total bilirubin with renal dysfunction among community-dwelling subjects.	Int Urol Nephrol. 2017; 49: 1439-1446.	Original Article
82	Kawamoto R, Ninomiya D, Senzaki K, et al.	地域医療学講座	Alanine Aminotransferase and Total Bilirubin Are Synergistically Associated with Metabolic Syndrome Among Middle-Aged and Elderly Japanese	Metab Syndr Relat Disord. 2017; 15: 407-415.	Original Article
83	Azamoto N, Kumagi T, Koizumi M, et al.	地域医療学講座	Diagnostic Challenge in Pancreatic Sarcoidosis Using Endoscopic Ultrasonography.	Intern Med 2017; 57(2):231-235	Original Article
84	Kamada T, Imai H, Mashima N, et al.	地域医療再生学講座	Acetabular reconstruction with the Kerboul-type plate at mid-term follow-up: survivorship analysis and prognostic factors for loosening.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2017 Oct 12.	Original Article
85	Eguchi M, Ozaki E, Yamauchi T, et al.	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	Manifestation of recessive combined D-2-, L-2-hydroxyglutaric aciduria in combination with 22q11.2 deletion syndrome	Am J Med Genet A. Epub 2017 Dec 19.	Original Article
86	Yamauchi T, Mogi M, Kan-no H, et al.	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	Roles of Angiotensin II Type 2 Receptor in Mice with Fetal Growth Restriction	Hyper Research 2017 in press	Original Article
87	Samura O, Sekizawa A, Suzumori N, et al.	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	Current status of non-invasive prenatal testing in Japan.	JOGR 2017, 43, 1245-1255.	Original Article
88	Aoki S, Murata H, Fujino Y, et al.	視機能再生学講座	Investigating the usefulness of a cluster-based trend analysis to detect visual field progression in patients with open-angle glaucoma.	Br J Ophthalmol. 2017 Dec;101(12):1658-1665.	Original Article
89	Nakano T, Mizoue S, Fuse N, et al.	視機能再生学講座	Fixed combination of travoprost and timolol maleate reduces intraocular pressure in Japanese patients with primary open-angle glaucoma or ocular	Clin Ophthalmol. 2016 Dec 20;11:55-61.	Original Article
90	Naito T, Namiguchi K, Yoshikawa K, et al.	視機能再生学講座	Factors affecting eye drop instillation in glaucoma patients with visual field defect.	PLoS One. 2017 Oct 12;12(10)	Original Article
91	Mizoue S, Nitta K, Shirakashi M, et al.	視機能再生学講座	Erratum to: Multicenter, Randomized, Investigator-Masked Study Comparing Brimonidine Tartrate 0.1% and Timolol Maleate 0.5% as Adjunctive Therapies	Adv Ther. 2017 Sep;34(9):2179.	Original Article
92	Asaoka R, Murata H, Fujino Y, et al.	視機能再生学講座	Effects of ocular and systemic factors on the progression of glaucomatous visual field damage in various sectors.	Br J Ophthalmol. 2017 Aug;101(8):1071-1075	Original Article

93	Furukawa S, Sakai T, Niiya T, et al.	地域生活習慣病・内分泌学講座	Smoking and prevalence of nocturia in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a post-hoc analysis of the Dogo study.	Neurourol Urodyn 36: 1336-41, 2017	Original Article
94	Hiraoka A, Otsuka Y, Kawasaki H, et al.	地域生活習慣病・内分泌学講座	Impact of muscle volume and function decline in patients undergoing surgical resection for hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol Hepatol 2017	Original Article
95	Yoshida S, Miyake T, Yamamoto S, et al.	地域生活習慣病・内分泌学講座	Relationship between urine pH and abnormal glucose tolerance in a community-based study.	J Diabetes Investig 2017	Original Article
96	Hara Y, Shiraishi A, Sakane Y, et al.	地域眼科学講座	Effect of Mandarin Orange Yogurt on Allergic Conjunctivitis Induced by Conjunctival Allergen Challenge.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2017 Jun 1;58(7):2922-2929.	Original Article
97	Kenshi Takechi, Hiroaki Yanagawa, Yoshito Zamami, et al.	薬剤部	Evaluation of factors associated with the achievement of an optimal teicoplanin trough Concentration	Int J Clin Pharmacol Ther 55, 672-677 (2017)	Original Article
98	Kenshi Takechi, Yurika Yoshioka, Hitoshi Kawazoe, et al.	薬剤部	Psychiatric Patients with Antipsychotic Drug-Induced Hyperprolactinemia and Menstruation Disorders.	Biol Pharm Bull 40, 1775-1778 (2017)	Original Article
99	Sumikawa Satomi, Shinichi Watanabe, Mamoru Tanaka, et al.	薬剤部	Effect of basic fibroblast growth factor on radiation-induced oral mucositis in male Syrian hamsters	Int J radiat Biol 6, 1-7 (2017)	Original Article
100	Kimura Hiroshi, Marie Shigematsu, Akihiro Tanaka, et al.	薬剤部	Predictive Performance of Vancomycin Trough Concentrations in Patients With Diabetes With Microalbuminuria	Ther Drug Monit 39, 614-616 (2017)	Original Article
101	Katsuya Suemaru, Misato Yoshikawa, Akihiro Tanaka, et al.	薬剤部	Anticonvulsant effects of acetaminophen in mice: Comparison with the effects of nonsteroidal anti-inflammatory drugs	Epilepsy Res 140, 22-28 (2017)	Original Article
102	Takakura A, Lee JW, Hirano K, et al.	病態機能解析部門	Administration frequency as well as dosage of PTH are associated with development of cortical porosity in ovariectomized rats	Bone Research 5: 17002 (2017)	Original Article
103	Yamane H, Takakura A, Shimadzu Y, et al.	病態機能解析部門	Acute development of cortical porosity and endosteal naïve bone formation from the daily but not weekly short-term administration of PTH in rabbit.	PLoS One 12(4): e0175329 (2017)	Original Article
104	Koide M, Kobayashi Y, Yamashita T, et al.	病態機能解析部門	Bone Formation Is Coupled to Resorption Via Suppression of Sclerostin Expression by Osteoclasts.	J Bone Miner Res 32: 2074-2086 (2017)	Original Article
105	Ogawa H, Okada M, Shudou M, et al.	病態機能解析部門	Prevention of ischemia-induced hearing loss by intravenous administration of hydrogen-rich saline in gerbil	Neurosci Lett, 6;665:195-199.(2017)	Original Article
106	Takemori N, Takemori A, Tanaka Y, et al.	病態機能解析部門	MEERCAT: Multiplexed Efficient Cell Free Expression of Recombinant QconCATs For Large Scale Absolute Proteome Quantification.	Mol Cell Proteomics, 16(12):2169-2183.(2017)	Original Article

計106件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	高橋敏明, 池田祐一, 高田清式	血液・免疫・感染症内科学	愛媛大学卒業10年未満の医師に対する臨床研修についてのアンケート調査	愛媛医学 36(4): 226-231, 2017	Original Article
2	長谷部晋士, 木谷彰岐, 河添仁, 他、	血液・免疫・感染症内科学	再発・難治性悪性軟部腫瘍に対する pazopanib 治療の検討	愛媛医学 36(1): 41-46, 2017	Original Article
3	小林加奈, 村上朱里, 小松紗綾, 他、	血液・免疫・感染症内科学	乳癌治療経過中に Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy (PTTM) を発症しがんの薬物治療により長期生存を得た1例	癌と化学療法 44(3): 243-246, 2017	Case report
4	長谷部晋士, 薬師神芳洋	血液・免疫・感染症内科学	分子標的治療薬の近年の進展と甲状腺がん治療	愛媛医学 36(1): 1-8, 2017	Original Article
5	藤原弘	血液・免疫・感染症内科学	TCR/CAR 遺伝子導入 T 細胞を用いた血液腫瘍に対する養子免疫療法	血液内科 74(1): 24-30, 2017	Case report
6	岡田恵子, 森口直彦, 畠山直樹, 他、	小児科学	小児の好中球減少期発熱患者におけるミカファンギンの薬物動態と安全性 小児白血病研究会 (JACLS) からの報告	日本小児血液・がん学会雑誌 53:117-122	Case report
7	越智史博, 水野由美, 青木知信 (2017)	小児科学	血液培養陽性となった黄色ブドウ球菌感染症の臨床像	小児感染免疫 28: 249-256	Case report
8	長尾みづほ, 桑原優, 平山淳也, 他、	小児科学	特異的 IgE 抗体の多項目同時測定システムを応用した小児アレルギー疾患の感作パターン解析 マストイミノシステムの新しい利用法	日本小児アレルギー学会誌 31: 253-261.	Case report
9	矢島知里, 濱田淳平, 中矢隆大, 他、	小児科学	低身長精査時の軽度空腹時高血糖を契機に診断し得た MODY 2 姉妹例	愛媛医学 36: 36-40	Original Article
10	宮本真知子, 手束真理, 小泉宗光, 他、	小児科学	呼吸不全のため心肺蘇生を要したヒトメタニューモウイルス肺炎の乳児例—当院入院症例の検討	愛媛医学 36: 52-56	Original Article
11	河邊 憲太郎, 堀内史枝, 越智 麻里奈, 他、	精神神経科学	青少年におけるインターネット依存の有病率と精神的健康状態との関連	精神神経学雑誌 119(9): 613-620, 2017	Case report
12	松本 美希, 近藤 静香, 妹尾 香苗, 他、	精神神経科学	自閉スペクトラム症におけるバウム・テストに関する検討—気分障害に着目して—	最新精神医学 22(3): 275-281, 2017	Original Article
13	近藤 静香, 河邊 憲太郎, 松本 美希, 他、	精神神経科学	標準注意検査法を用いた成人期 ADHD の注意機能評価	精神医学 59(5): 483-490, 2017	Original Article
14	越智麻里奈, 河邊憲太郎, 見山芳隆, 他、	精神神経科学	統合失調症との鑑別に苦慮した青年期女性自閉スペクトラム症の1例	精神科 30(5): 455-460, 2017	Original Article
15	越智紳一郎, 上野修一	精神神経科学	非寛解うつ病に対して増強か切り替えか—高齢者の非寛解うつ病で考えておきたいこと	臨床精神薬理 20(5): 585-588, 2017	Original Article
16	村上朱里, 亀井義明, 山澤令菜, 他、	肝胆膵・乳腺外科学	S 状結腸癌術後観察中に発見された乳腺腺様嚢胞癌の1例	愛媛医学 2017;36(2):91-94	Original Article
17	小松紗綾, 田口加奈, 村上朱里, 他、	肝胆膵・乳腺外科学	妊娠期に急速増大した境界悪性葉状腫瘍の1例	日本臨床外科学会雑誌 2017;78(8):1704-1709	Case report
18	松本圭子, 白石 研, 藤山幹子, 千他、	皮膚科学	創創状強皮症を伴った Parry-Romberg 症候群の1例	西日本皮膚科;9(5): 473-477, 2017.10	Original Article
19	藤山幹子	皮膚科学	特集 フレッシュヤース必読! 日本各地の皮膚病からみた皮膚科診療の醍醐味—皮膚科センスの磨き方— Case5 Part1. 各地の皮膚病から見えてきた皮膚の世	Visual Dermatology; Vol.16(4):327-329, 2017.3.25	Original Article

20	藤山幹子	皮膚科学	写真で学ぶアレルギー これがトキシックショック症候群だ！	皮膚アレルギーフロンティア;15(2):50,2017.7	Case report
21	難波千佳,佐山浩二	皮膚科学	新・皮膚科セミナリウム●自己免疫性水疱症:基礎と臨床Update 自己免疫性水疱症におけるIVIg療法	日本皮膚科学会雑誌;127(9):2085-2089,2017.8	Case report
22	大蔵隆文、檜垣實男	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	降圧薬治療 降圧薬選択の基本的考え方	臨牀と研究 94:24-28, 2017.	Original Article
23	大蔵隆文	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	いま臨床医が知っておくべき高血圧のすべて 高血圧診療に有用なバイオマーカー	医学のあゆみ 260:374-380, 2017.	Original Article
24	檜垣實男、大蔵隆文	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	いま臨床医が知っておくべき高血圧のすべて レニン-アンジオテンシン系阻害薬の使い方	医学のあゆみ 260:457-462, 2017.	Original Article
25	大蔵隆文	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	β遮断薬 冠動脈病変がない患者には使うべきでないのか？	血圧 24: 38-42, 2017.	Case report
26	檜垣彰典,大蔵隆文,檜垣實男	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学	妊娠時高血圧の治療	内分泌・糖尿病・代謝内科, 科学評論社, 東京, 44(5): 384-389, 2017.	Case report
27	八杉 巧	心臓血管・呼吸器外科学	交感神経切除術	臨牀脈管学 229-230	Original Article
28	泉谷裕則	心臓血管・呼吸器外科学	末梢動脈疾患 (PAD)	日本臨牀 75(4)476-479	Original Article
29	泉谷裕則	心臓血管・呼吸器外科学	ハートチームで行う大動脈弁狭窄症の新たな治療—経カテーテル大動脈弁移植術 (TAVI)—	愛媛医学 36(4)212-214	Original Article
30	佐藤恵里子、佐伯忠彦、大河内喜久	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	鼻腔内異物が疑われた逆生歯牙の1例	耳喉頭頸 89(3):261-264,2017	Original Article
31	中川隆之、山本倫生、熊川孝三、他、	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	突発性難聴ステロイド全身投与無効例に対する救済療法の聴力回復予後因子に関する後ろ向き観察研究	日耳鼻 120(3):274-275,2017	Original Article
32	佐藤恵里子、佐伯忠彦、大河内喜久、他、	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	内視鏡下鼻内手術を施行した鼻口蓋管嚢胞の1例	耳喉頭頸 89(7):547-551,2017	Original Article
33	岩崎 聡、宇佐美真一、高橋晴雄、他、	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	成人人工内耳適応基準についての全国アンケート調査結果	Otology Japan 27(2):149-155,2017	Original Article
34	佐藤恵里子、佐伯忠彦、橋本 大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	当科における大唾液腺腫瘍の臨床的検討	口腔・咽頭科30(2):175-184,2017	Original Article
35	藤渕剛次、宮脇城二、木谷彰岐、他、	整形外科	手指における腱鞘巨細胞腫の発生部位とその予後	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2017 60巻6号 1025-1026	Case report
36	白石善孝、今井 浩、宮脇城二、他、	整形外科	大腿骨頭回転骨切り術における内反と前捻を制御した術前3次元プランニング	臨牀バイオメカニクス 2017 38巻 399-405	Original Article
37	中田浩史、見崎 浩、間島直彦、他、	整形外科	巨大な骨欠損を有する高度骨盤後傾症例に対しボースタンタルスベーターを用いて寛骨臼を再建しTHAを行った1症例	中国・四国整形外科学会雑誌 2017 29(2) 261-265	Case report
38	井上 卓 今井 浩 宮脇城二 他、	整形外科	FAI鏡視下手術後の疼痛に対しZed Hipを用いたROMシミュレーションが治療方針決定の補助となった1例	中国・四国整形外科学会雑誌 2017 29 354	Case report
39	渡邊誠治	整形外科	足の外科とリハビリテーション	理学療法愛媛 2017 30 43103	Original Article

40	野田輝乙, 新井欧介, 福本哲也, 他、	泌尿器科学	経直腸的前立腺生検における便培養の検討	西日本泌尿器科 79(1) 8-11 2017	Original Article
41	野田輝乙, 宮内勇貴, 新井欧介, 他、	泌尿器科学	高齢ドナーからの生体腎移植の検証	日本臨床腎移植学会雑誌 5(1)18-22 2017	Case report
42	雑賀隆史	泌尿器科学	Robot手術におけるトラブルシューティング	泌尿器外科 30(10) 1533-1535 2017	Original Article
43	斎藤誠一, 雑賀隆史, 寺岡祥吾, 他、	泌尿器科学	腹腔鏡下手術 安全に手術を遂行するために	西日本泌尿器科 79(8) 273-274	Original Article
44	三浦徳宣, 西田敬悟, 新井欧介, 他、	泌尿器科学	去勢抵抗性前立腺癌に対する新規薬剤の現状と課題	西日本泌尿器科 79(8) 322-332 2017	Original Article
45	川口直人, 石丸良広, 村上忠司, 他、	放射線医学	特発性食道胃粘膜下血腫に対して動脈塞栓術を施行した1例.	臨床放射線 9, 2017	Original Article
46	井手香奈	放射線医学	基本から身につく縦隔・胸膜の画像診断「嚢胞性腫瘍」	画像診断 37(12): 1175-1186, 2017	Original Article
47	小川 遼	放射線医学	心臓MRIに関するトピックス	World On-Line News	Original Article
48	城戸倫之	放射線医学	心臓MRIにおける画像診断の今	Rad Fan Vol.15 N0.3. (2017.3月号)	Original Article
49	城戸倫之	放射線医学	MRIにおける心臓の包括検査の実際	INNERVISION Vol.32 N0.5. (2017.5月号)	Original Article
50	小泉洋平, 廣岡昌史, 越智裕紀, 他、	消化器・内分泌・代謝内科学	肝造影MRI検査の肝細胞相を用いた胆管描出と胆管近接肝細胞癌症例における仮想超音波の有用性	超音波医学 44(2): 167-174, 2017.	Original Article
51	平岡淳, 熊田卓, 能祖一裕, 他、	消化器・内分泌・代謝内科学	肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術の腫瘍マーカーを用いた簡易な予後予測: 多施設共同研究	肝臓 58(6): 329-337, 2017.	Original Article
52	安藤利奈, 山崎知恵子, 岩城寛尚, 他、	薬物療法・神経内科学	パーキンソン病患者の治療薬と自動車運転状況: 重大自動車事故と抗パーキンソン薬との関係について	臨床薬理 2017,48(5):167-171.	Original Article
53	多田 聡, 野元正弘	薬物療法・神経内科学	運動症状が出現してから2年間, MIBG心筋シンチグラフィおよびDaTSPECTが正常だったパーキンソン病の1例	愛媛医学 2017,36(2):105-107.	Original Article
54	宮上紀之, 野元正弘	薬物療法・神経内科学	パーキンソン病治療薬の臨床薬理	日本臨床 2017,75(1):2-6.	Original Article
55	多田 聡, 野元正弘	薬物療法・神経内科学	第1章よくある疾患に対する薬の使い分け 17認知症	月刊薬事-エキスパートが教える薬の使い方×エビデンスの調べ方 2017.59(2):347-353.	Case report
56	野元正弘	薬物療法・神経内科学	神経疾患治療薬/認知症治療薬・Parkinson病薬・脳血管障害および, その他の神経疾患治療薬	臨床薬理学 第4版:317-321, 医学書院, 東京, 2017年11月15日	Original Article
57	竜田恭介, 石本健太, 古澤敬子, 他、	消化管・腫瘍外科学	当科における腸回転異常症の新生児乳児例と年長児例の比較検討	日本小児外科学会雑誌 2017.8 第53巻 第5号 1004-1008	Case report
58	大木悠輔, 絹笠祐介	消化管・腫瘍外科学	直腸癌—低位前方切除術	臨床外科 2017.10.22 第72巻 第11号 増刊号別刷	Original Article
59	杉山 隆	産婦人科学	産科出血に立ち向かう: 子宮内バルーンタンポナーデ	産科と婦人科. 診断と治療社. 84:557-562, 2017	Original Article

60	杉山 隆、上野愛実、南條眸、他、	産婦人科学	産婦人科領域からみた女性の肥満	肥満研究 23:15-20,2017	Original Article
61	杉山 隆、上野愛実、南條眸、他、	産婦人科学	DOHaDの視点からみた妊娠糖尿病の管理.	産科と婦人科. 診断と治療社 84:1172-1177,2017	Original Article
62	杉山 隆	産婦人科学	妊婦の糖代謝異常update 妊婦の糖代謝異常が胎児に及ぼす影響とその機序	内分泌・糖尿病・代謝内科. 科学評論社 44:268-273,2017	Case report
63	杉山 隆	産婦人科学	ハイリスク症例への対応:肥満女性に対する産科手術	産婦人科手術. メジカルビュー社 28:79-82,2017	Original Article
64	國枝武治、菊池隆幸、吉田和道、他、	脳神経外科学	特集「てんかんと機能的脳神経外科の課題と展望」「てんかんの診断と外科治療の適応と課題」	脳神経外科ジャーナル 26巻12号p856-863	Original Article
65	國枝武治	脳神経外科学	Special Article「皮質機能マッピングの実際」のやり方	Epilepsy Vol.11 No.1 p7-12	Original Article
66	國枝武治、菊池隆幸、吉田和道	脳神経外科学	手術のコツとピットフォール「硬膜下電極留置術-側頭葉てんかんを中心に」	脳神経外科速報 第27巻11号p1136-1143	Original Article
67	渡邊愛沙、萬家俊博、阿部尚紀、他、	麻酔・周術期学	術中大量出血時の希釈性凝固障害に対するフィブリノゲン濃縮製剤投与の有用性	臨床麻酔 2017:4:591-594	Original Article
68	安平あゆみ、檜垣暢宏、藤岡志帆、他、	麻酔・周術期学	複合性局所疼痛症候群の拡大した痛みに対し脊髄電気刺激法が有用であった2症例	日本ペインクリニック学会誌 別冊 2017:353-357	Case report
69	北村咲子、武智健一、安平あゆみ、他、	麻酔・周術期学	緑内障併存症例におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術中の眼圧推移	日本臨床麻酔学会誌 別冊 2017:7:743-747	Case report
70	西川裕喜、常盤大樹、仙波和記	麻酔・周術期学	Kommerell憩室を伴う右大動脈弓を合併した胃がん症例の全身麻酔経験	麻酔 2017:12:1298-1301	Original Article
71	萬家俊博	麻酔・周術期学	Remote Ischemic Precinductioning	臨床麻酔 2017:2:137-146	Original Article
72	相引眞幸、竹葉淳、大下宗亮、他、	救急医学・救急航空医療学講座	成人の心肺蘇生と心停止後症候群の管理	集中治療レビュー2018-19.2017.10. 125-129	Case report
73	相引眞幸	救急医学・救急航空医療学講座	JRC 蘇生ガイドライン2015 ALS の解説と2020 年への期待	JRC Newsletter.2017.1.3	Original Article
74	小谷 穰治、江木 盛時、海塚 安郎、他、	救急医学・救急航空医療学講座	本集中治療医学会重症患者の栄養管理ガイドライン作成委員会 日本版重症患者の栄養療法ガイドライン 病態別栄養療法	日本集中治療医学会雑誌24巻5号569-591 2017年9月	Case report
75	佐藤 格夫、菊池 聡、松本 紘典、他、	救急医学・救急航空医療学講座	「重症患者における栄養管理」至適エネルギー投与量の決定	外科と代謝・栄養51巻6号309-315 2017年12月	Original Article
76	栗原 幸男、石田 博、檜部 公一、他、	医療情報学	患者プロフィール情報管理の課題と改善策	医療情報学. 2017;37(3):125-33.	Original Article
77	木村映善、濱田浩気、諸橋 玄武、他、	医療情報学	分散医療情報分析基盤の秘密計算適用可能性の検証.	医療情報学 37(Suppl.):518-522.2017年11月.	Original Article
78	木村映善、蒲生 祥子、石原 謙	医療情報学	分散意味表現を利用したUMLSの概念と日本語の医学用語間のマッピングの試み	医療情報学 37(Suppl.):1181-5.2017年11月	Original Article
79	蒲生 祥子、岡田久仁子、木村 映善、他、	医療情報学	地域BWAを利用した構内音声網構築に向けた音声品質評価	医療情報学 37(Suppl.):1081-4.2017年11月.	Original Article

80	木村 映善,山本 景一	医療情報学	CDISC/ODMの概念マッピングによるEDCとEMR連携の試み	医療情報学 37(Suppl.):159-63.2017 年11月	Original Article
81	大八木保政	老年・神経・総合診療内科学	アルツハイマー病. 今日の治療指針 2017年版(福井次矢・高木誠・小室一成・総編集)	医学書院. pp. 909-911, 2017.	Original Article
82	大八木保政	老年・神経・総合診療内科学	アルツハイマー病:脳の糖尿病の治療薬開発	老年期認知症研究会誌 21: 46-49, 2017.	Case report
83	大八木保政	老年・神経・総合診療内科学	ルツハイマー型認知症の予防	BIO Clinica 32(8): 39- 43, 2017.	Original Article
84	伊賀瀬道也, 岡田陽子, 尾原麻耶, 他、	老年・神経・総合診療内科学	認知症予防の最前線	愛媛医学36: 77-81, 2017.	Original Article
85	川本龍一	地域医療学講座	高尿酸血症:メタボリックシンドローム	日本臨床 75;1920- 1924 2017.	Original Article
86	熊木天児, 大野芳敬, 今村良樹, 他、	地域医療学講座	続発性硬化性胆管炎の診断	肝と脾 38 (6): 575-578, 2017.	Original Article
87	久門良明, 伊賀瀬圭二, 高野昌平, 他、	地域医療再生学講座	脳神経外科手術における術中4次元超音波イメージングの意義について	愛媛医学36(4):206-211, 2017	Original Article
88	久門良明, 西川真弘, 松本 調, 他、	地域医療再生学講座	本邦における脳卒中医療地域格差の現状とその解決策	脳卒中 in press	Original Article
89	宮本真知子, 小西恭子, 山本英一, 他、	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	肺炎+発疹のみで冠動脈瘤を来した不 全型川崎病の4か月男児例	Prog. Med. 2017; 37: 805-809	Original Article
90	西村幸士, 日野ひとみ, 竹本幸司, 他、	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	愛媛県東予東部地区における医療圏域を越えた広域小児二次救急輪番体制の構築	日本小児科学会雑誌 2017 in press	Case report
91	松原圭一, 藤岡 徹, 松元 隆, 他、	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	腹腔鏡下広汎子宮全摘術を安全に行うためのdevice選択.	現代産婦人科 2017, 65, 253-258.	Original Article
92	松原圭一 (2017)	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	妊娠と高血圧・糖尿病:母性医療の視点より	妊娠高血圧症候群の発症機構 2017, 43, 14- 16.	Original Article
93	松原圭一 (2017)	地域小児・周産期学講座/ 地域小児保健医療学講座	母と子の診断羅針盤【産科編】脳・神経 症状 025 痙攣.	周産期医学増刊号 2017, 47, 145-154.	Original Article
94	溝上志朗	視機能再生学講座	【「眼圧」:その変動と変化の実際】眼圧調整のメカニズムと変動	日本の眼科88巻8号: 992-996.2017.08	Original Article
95	松浦文三	地域生活習慣病・内分泌学講座	糖尿病と消化器疾患Update.	プラクティス34: , 360-4, 2017	Case report
96	森 秀樹, 戸澤麻美, 三宅啓介, 他、	形成外科	幼少期から残存していたペースメーカーリード感染の1例	創傷 8(4):143-149, 2017	Case report
97	中岡啓喜	形成外科	色素レーザー治療後に皮膚潰瘍を来し、修正術を要した赤唇部乳児血管腫の1例	形成外科 60(12):1356- 1358, 2017	Original Article
98	中岡啓喜	形成外科	腫瘍を発生しやすい母斑症、症候群	PEPARS 122:91-95, 2017	Original Article
99	永井将弘	臨床研究支援センター	新しいパーキンソン病治療薬	日本臨床 2017,75(1):136-140.	Original Article

100	永井将弘	臨床研究支援センター	鎮痛剤, 頭痛薬	臨床薬理学 第4版:331-335,医学書院,東京,2017年11月15日	Case report
101	高田律美, 伊藤一統, 山本隆一郎, 他、	睡眠医療センター	保育所における午睡環境・安全性の検討	不眠研究 2017:9-13, 2017	Original Article
102	森久美子, 高田律美, 岡靖哲	睡眠医療センター	地域の母子の命を守る人々—ザンビア共和国の母子保健—	助産師 71(3):25-28, 2017	Original Article
103	岡靖哲	睡眠医療センター	睡眠習慣と睡眠衛生の改善	内科120(5):1037-1041, 2017	Original Article
104	岡靖哲	睡眠医療センター	Z-Drug時代の不眠症治療～薬理学的観点から臨床まで～	Clinician 64(1):28-33, 2017	Original Article

計104件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 病院長の責務、研究者等の責務、倫理審査委員会の設置、個人情報等、重篤な有害事象への対応に関する手順書、研究者の信頼性の確保、研究実施に関する窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反委員会、利益相反相談室、自己申告書の提出等の手続き	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容 個人情報保護法改正に伴う研究倫理指針の改正について、事例から学ぶ研究倫理、医師主導治験の計画と実施、臨床研究法施行後の臨床研究のあり方について、医学系研究の倫理審査について～臨床研究および個人情報保護法改正に伴う倫理指針の改定を中心に～	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

第一内科 【血液内科】 【膠原病・リウマチ内科】 【感染症内科】

第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行っている。また、最近社会的ニーズが非常に高い臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の育成にも努力している。

第二内科 【循環器内科】 【呼吸器内科】 【腎臓内科】

当科に所属する日本内科学会総合内科専門医、日本循環学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本腎臓専門医、日本老年病専門医、日本臨床遺伝専門医、日本アレルギー学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本高血圧学会専門医が血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼療法等の高度医療を指導し、専門医の育成を行った。

第三内科 【消化器内科】 【肝臓内科】 【内分泌代謝内科】

この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として消化管・肝・胆・膵領域、甲状腺・副腎皮質などの内分泌領域、糖尿病をはじめとする糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝、金属代謝などの代謝領域、および栄養学の研修を指導した。研修では各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標を持ち自律的意欲的に研修、習得する医師の養成を目指している。当科のスタッフは日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者等の各種指導資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

【老年・神経内科】

神経内科、老年病、脳卒中、認知症などの専門医が、神経疾患、脳卒中や認知症の診療を教育した。入院診療では、免疫性神経疾患や変性疾患などを主体として、神経学的診察、末梢神経・中枢神経の電気生理検査、針筋電図や超音波検査(頸部血管、経頭蓋、経食道)などの専門手技の研修を行った。また、認知症診療では、愛媛県認知症疾患医療センターやもの忘れ外来診療を中心に、薬物治療や介護保険の利用法、その他の社会支援制度利用や生活指導の方法などの教育を行った。

糖尿病内科・臨床検査医学【糖尿病内科】

糖尿病専門医・指導医、内科専門医・指導医による専門的かつ総合的な研修を実施した。具体的には、1型糖尿病の診断・管理、急性代謝異常の診断・管理、2型糖尿病の診断・管理、その他特定の型(2次性)糖尿病の診断・管理、糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病の診断・管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法(CSII)を用いた血糖管理、持続血糖測定(CG M)を用いた血糖管理、ならびに糖尿病合併症の診断・治療・管理・予防教育を行った。

【薬物療法・神経内科】

脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行った。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行った。研修後に総合内科専門医、神経内科専門医、認知症専門医、頭痛専門医、臨床薬理専門医を取得している。

【精神科】

大学病院及び関連病院にて研修を行っている。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、その分野で研鑽をつみ、精神科医としての技能や知識を習得する。また、下記の項目にも重点をおく。

1. 児童思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例、また器質性、機能的、反応性の各精神障害の症例すべての臨床経験を獲得するよう主治医としてかかわる。
2. 臨床研究として、学会発表を行う。
3. 国内・国際学会、教室内外の勉強会に参加する。
4. クロザピン投与、修正型電気けいれん療法、光トポグラフィーなど極めて専門性の高い検査・治療に携わる。

また、臨床経験5年後には、精神保健指定医を取得し、日本精神神経学会専門医の獲得ができるよう環境を整えている。

【小児科】

後期研修1年目より専門医の取得を目指し小児の各分野の高度医療を実践する。特に新生児の管理・治療、小児がんの造血細胞移植などの高度医療、循環器疾患のインターベンション治療を含めた高度医療、難治性神経疾患の治療、遺伝性疾患の遺伝カウンセリングなどの他、感染症、内分泌・代謝、アレルギー、腎、膠原病などの幅広い小児科の分野の研修を行っている。また研修期間中は予防接種、健診などの予防医療についても研修を行っている。

消化器腫瘍外科 【消化器腫瘍外科】

消化器（主に消化管）癌に対する外科的治療（開腹、内視鏡、ロボット支援手術）を系統的に学び、更に化学療法、放射線治療などの集学的治療による治療戦略を学ぶことができる臨床研修を行う。外科専門医のみならず内視鏡外科技術認定医を目指した高度な手術技術を指導する。ドライラボ、アニマルラボ、シミュレータ、カダバーによる習熟度に応じた手術指導も定期的に行われ、スキルアップを図る体制を用意している。

肝胆膵・移植外科【肝臓外科】【胆のう外科】【膵臓外科】【乳腺外科】【移植外科】

肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医及び肝胆膵外科高度専門医を取得できるように、研修、指導を行った。

心臓血管・呼吸器外科 【心臓血管外科】【呼吸器外科】

- 1 心臓血管外科におきましては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標としています。将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行った。
- 2 呼吸器外科におきましては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能です。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行った。

【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で、脳神経外科の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させるため、基本診療科の一つとして、愛媛大学と関連連携施設で研修をすすめる。当施設では脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、脳卒中の急性期治療（脳血管内治療を含む）、脊椎・脊髄疾患の診療、手術に必要な微小解剖のトレーニングを中心としている。脳腫瘍・脳血管疾患、脊椎、脊髄の主要な疾患の他に、小児脳神経外科、機能神経外科、感染症などの田崎な疾患群全てを研修可能である。それによって、脳神経外科専門医取得にあたっての、十分な臨床経験を積める環境が整っている。

【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観を備えた医師を養成すべく、進歩す

る医学知識と最新の医療技術を研鑽させた。特に以下の3点に重点を置いた教育を行った。

- 1, 高齢者のQOLを支える医療
- 2, エビデンスに基づく幅広い治療方針
- 3, 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

さらに、整形外科専門医習得に必要な臨床症例の経験と論文作成・学術発表の指導も行った。

皮膚科、形成外科 【皮膚科】 【形成外科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けている。

皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っている。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能である。

形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専門的な技術を習得できる研修を行っている。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顎顔面外科専門医などの取得も可能である。

【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行います。効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるように県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備しています。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対しての内視鏡的手術、婦人科泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行っています。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療なども、全国的にもリーダー的存在で、専門性の高い研修を行っています。

【眼科】

日本眼科学会の研修プログラム基幹研修施設として眼科指導医のもとで、眼科学の進歩に応じて、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成するための指導を行った。研修プログラムでは、外来患者および年間1000例以上の手術症例を中心に、眼科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を取得させる内容となっている。また、高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、御遺体を用いて以下の涙道手術手技研修を行っている。

【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

放射線科 【放射線診断分野】 【放射線治療分野】

1. 診断専門医は、画像診断（X線、CT、MRI、超音波等）、核医学、インターベンションラジオロジー（IVR）の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようにする。
2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようにする。

産婦人科 【周産期医学分野】 【婦人科腫瘍分野】 【女性医学分野】 【生殖医療分野】

日本産科婦人科学会専門医指導医のもと、上記4領域において患者を担当する医療者チームの一

員として診断・治療に携わる。4領域に関する研修ガイドラインに基づいて臨床に必要な基本知識・産婦人科疾患に対する検査・診断・治療を以下の項目を目標に修得する。

1. 周産期医学分野：母体合併症妊娠における母児の問題点および管理法、超音波検査を用いた胎児の推定体重や血流測定を含めた胎児の元気度の評価や構造異常の評価に関して修得する。分娩管理については、分娩進行の評価につき研修し、分娩介助および帝王切開の適応・手技についても修得する。
2. 婦人科腫瘍分野：婦人科疾患における超音波検査・CT検査・MRIなどの画像診断を用いた診断学の修得を行う。内診による腫瘍の進展度の評価やコルポスコーピーによる子宮頸部病変の評価について研修する。開腹術・腹腔鏡下の婦人科手術手技を理解し、基本的手技および周術期管理の実際について修得する。
3. 女性医学分野：女性の内分泌疾患に対する診断・管理やホルモン補充療法、更年期障害に対するアプローチについて研修する。
4. 生殖医療分野：不妊症の検査・診断および生殖補助技術*以外の排卵誘発法やタイミング法などの基本的な治療について研修する。(*:生殖補助技術については、他施設において研修する。)

【麻酔科蘇生科】

臨床の現場において、手術における全身麻酔や区域麻酔，集中治療管理，痛みの治療の研修指導を行い，さらに下記の研修を通して，より高度な医療技術を身につけるよう指導した。

1. 高機能シミュレータを用いた全身麻酔手技の習得
2. 危機的状況を想定したシナリオトレーニング
3. 緩和ケア医療の研修

リハビリテーション部 【リハビリテーション科】

日本リハビリテーション医学会専門医の指導の下、以下の項目を目標とした教育プログラムを行った。

- 1) 診断学：リハビリテーションを行う上で必要な、各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などを、評価・施行できる。運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害、心肺機能障害、排泄障害の評価といった、関連領域も評価ができる。
- 2) 治療：全身状態の管理ができる。障害評価に基づく治療計画が立てられる。各種リハビリテーション（理学療法・作業療法など）に加え、義肢装具の処方・ブロック療法・薬物治療・生活指導などができる。

【救急科】

専攻医には、以下の3つの学習方法で専門研修を行います。

- 1 臨床現場での学習：経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医に広く臨床現場での学習を提供します。

- 1) 救急診療や手術での実地修練(on-the-job training)
- 2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス
- 3) 抄読会・勉強会への参加
- 4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得

- 2 臨床現場を離れた学習：国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会およびJATEC、JPTEC、ICLSコースなどのoff-the-job training courseに積極的に参加します。救命処置法の習得のみならず、インストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学びます。また、研修施設もしくは日本救急医学会等が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも1回は参加します。

- 3 自己学習 専門研修期間中の疾患や病態の経験値の不足を補うために、日本救急医学会等が準

備する「救急診療指針」、e-Learning などを活用した学習を病院内や自宅で利用できる機会を提供します。 研修プログラムの実際と特徴 本研修プログラムは、各専攻医の希望を考慮し、個々の基本モジュールの内容を吟味した上で、基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるように設計された研修コースです。本研修プログラムによる救急科専門医取得後には、集中治療、外傷、熱傷などの救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動を選択することが可能です。プログラム期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めています。また本研修プログラム管理委員会は、基幹研修施設である愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センターと協力し、大学卒業後 2 年以内の初期研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた初期研修プログラム作成にもかかわっています。

【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後のfollowを行った。

また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験した。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んだ。

【病理科】

病理専門医は、病理学総論と諸臓器の疾患に関する病理学的知見に基づいて、医療の根幹である病理診断（病理解剖、手術・生検標本診断、細胞診）を行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保し、高度先進医療、地域医療の推進に寄与する。本院では、「患者に学び患者に還元する医療」の姿勢で、医療倫理、医療安全を実施し、社会的ニーズに応じた病理専門医を育成する。病理専門研修では、日本病理学会の「専門研修手帳」に記された基準を満たすよう、知識・技能・態度の指導を行う。病理解剖については、視聴覚教材とマンツーマン指導による手技の修得・肉眼所見と病理組織標本検鏡・診断書作成、全例CPCを行う。手術・生検標本の診断と細胞診断は、業務マニュアルによる切り出し手技や報告書作成の標準化と、指導医によるマンツーマン指導・全例検閲を行う。臨床科との症例検討会での発表討論を日常的に行い、愛媛県病理研究会、中四国支部会、日本病理学会総会での症例報告を指導する。基礎の病理学講座との連携のもとに、分子病理学的研究手法の研鑽を奨励する。病理診断学の修練のみならず、専門医取得後のキャリア形成に留意し、後進の指導にあたる人材育成を目指す。

睡眠医療センター 【睡眠医療】

睡眠障害の診断・治療について、専門的研修を実施する。日本睡眠学会認定医療機関であり、年間200例以上の終夜睡眠ポリグラフィ実施を基盤とした睡眠障害の生理学的診断法、ならびに睡眠覚醒メカニズムに即した治療手法について、学会認定医が研修を担当する。国際学会での発表、論文指導も行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	41人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹中 克斗	第一内科	教授	27年	内科・感染症
長谷川 均	第一内科	特任教授	39年	膠原病・リウマチ
羽藤 高明	輸血・細胞治療部	特任教授	38年	血液
薬師神 芳洋	腫瘍センター	教授	30年	腫瘍内科
大蔵 隆文	腎臓内科	教授	32年	
池田 俊太郎	循環器内科	准教授	26年	
山口 修	呼吸器内科	教授	23年	循環器・呼吸器・高血圧内科学
日浅 陽一	第三内科	教授	28年	消化器・内分泌・代謝内科学
大八木 保政	老年・神経内科	教授	33年	神経内科・老年病
大澤 春彦	糖尿病内科・臨床検査医学	教授	30年	
永井 将弘	薬物療法・神経内科	准教授	30年	
上野 修一	精神科	教授	33年	
石井 榮一	小児科	教授	39年	
檜垣 高史	地域小児・周産期	教授	30年	
田内 久道	感染制御部	准教授	28年	
渡部 祐司	消化管腫瘍外科	教授	35年	
高田 泰次	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科	教授	35年	消化器外科、肝胆膵・移植外科
泉谷 裕則	心臓血管・呼吸器外科	教授	30年	心臓血管外科
佐野 由文	心臓血管・呼吸器外科	准教授	33年	呼吸器外科
國枝 武治	脳神経外科	教授	25年	脳神経外科
三浦 裕正	整形外科	教授	35年	
佐山 浩二	皮膚科・形成外科	教授	34年	
雑賀 隆史	泌尿器科	教授	31年	
白石 敦	眼科	教授	32年	
羽藤 直人	耳鼻咽喉科	教授	29年	耳鼻咽喉科
望月 輝一	放射線科	教授	38年	放射線診断分野
濱本 泰	放射線科	准教授	28年	放射線治療分野
杉山 隆	産婦人科	教授	31年	周産期・女性医学分野
松原 圭一	産婦人科	准教授	31年	周産期医学分野
藤岡 徹	産婦人科	准教授	27年	婦人科腫瘍分野
萬家 俊博	麻酔科蘇生科	教授	34年	
相引 眞幸	救急科	教授	40年	
中城 公一	歯科口腔外科	准教授	25年	
北澤 理子	病理診断科	特任教授	24年	
岡 靖哲	睡眠医療センター	准教授	25年	睡眠医療

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

<検査部>

- ・研修内容：「倫理，個人情報保護および接遇について」（検査部勉強会）
- ・実施日：平成29年4月25日～28日・4回
- ・受講者数：44名

- ・研修内容：「2017年度救急医療における脳死患者の対応セミナー」
- ・実施日：平成29年9月24日・1回
- ・受講者数：2名

- ・研修内容：「第19回 国公立大学附属病院感染対策協議会」
- ・実施日：平成29年10月19日～20日・1回
- ・受講者数：1名

- ・研修内容：「平成29年度国公立大学病院医療技術関係職員研修（臨床検査技術者）」
- ・実施日：平成29年11月7日～10日・1回
- ・受講者数：1名

- ・研修内容：「平成29年度日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会（第50回）」
- ・実施日：平成29年11月11日～12日・1回
- ・受講者数：8名

<放射線部>

- ・研修の主な内容：PET研修セミナー
- ・研修の期間・実施回数：平成29年4月23日 1回
- ・研修の参加人数：1名

- ・研修の主な内容：第7回デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー
- ・研修の期間・実施回数：平成29年9月2日 1回
- ・研修の参加人数：3名

- ・研修の主な内容：東北次世代がんプロ養成プラン東北大学医学物理セミナー
- ・研修の期間・実施回数：平成30年1名月27日 1回
- ・研修の参加人数：2名

- ・研修の主な内容：放射線治療認定機構統一講習会
- ・研修の期間・実施回数：平成30年3月3日 1回
- ・研修の参加人数：1名

- ・研修の主な内容：第25回核医学技術セミナー
- ・研修の期間・実施回数：平成30年3月10日 1回
- ・研修の参加人数：3名

<薬剤部>

- ・研修内容：新採用看護師研修「基礎看護技術演習②：経口薬の与薬」
- ・研修の期間・実施回数：4月6日
- ・研修の参加人数：70名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

<放射線部>

- ・研修の主な内容：I-131による残存甲状腺破壊(アブレーション)の外来治療における適正使用に関する講習会
- ・研修の期間・実施回数：平成29年9月2日 1回
- ・研修の参加人数：1名

- ・研修の主な内容：第23回放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会
- ・研修の期間・実施回数：平成29年10月8日 1回
- ・研修の参加人数：1名

- ・研修の主な内容：ホールボディカウンター計測研修
- ・研修の期間・実施回数：平成29年12月21日～12月22日 1回
- ・研修の参加人数：1名

- ・研修の主な内容：全国国立大学放射線技術者研修 第10回診療放射線技師 医療安全セミナー
- ・研修の期間・実施回数：平成30年2月17日 1回
- ・研修の参加人数：1名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

<検査部>

- ・研修内容：「感染症診断のための遺伝子検査」（講演）
- ・実施日：平成29年7月29日・1回
- ・受講者数：80名

・研修内容：「微生物検査技師が知っておきたい基本と考え方」（講演）

・実施日：平成29年7月30日・1回

・受講者数：40名

・研修内容：「微生物検査における基本と考え方」（講演）

・実施日：平成29年12月9日・1回

・受講者数：60名

<薬剤部>

・研修内容：「病院薬剤師が地域に貢献するには？～薬薬連携を使って医療制度に対応する～」

・研修の期間・実施回数：4月15日

・研修の参加人数：34名

・研修内容：平成29年度 多施設合同新人看護職員研修新人のための医療安全

～リスク感性を磨こう～

「1. くすりに関する基礎知識」「2. 薬剤を取り扱う看護師のリスク」

・研修の期間・実施回数：5月12日

・研修の参加人数：約70名

・研修内容：「腎機能低下時における抗菌薬TDMの注意点」

・研修の期間・実施回数：5月13日

・研修の参加人数：36名

- ・研修内容：「睡眠の質及び睡眠導入薬とせん妄、転倒リスク」
「愛媛県下での薬剤耐性 (AMR) 対策普及に向けて」
- ・研修の期間・実施回数：5月27日
- ・研修の参加人数：167名

- ・研修内容：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について」
- ・研修の期間・実施回数：6月11日
- ・研修の参加人数：70名

- ・研修内容：「臨床検査値と肝・腎マークを表示した院外処方箋における疑義照会内容の検討」
- ・研修の期間・実施回数：6月24日
- ・研修の参加人数：54名

- ・研修内容：第1回薬剤耐性 (AMR) 対策研修会「抗菌薬の基礎的な考え方と身近な感染症」
「抗菌薬の適正使用推進におけるプレアボイドシステムの活用」
- ・研修の期間・実施回数：6月30日
- ・研修の参加人数：125名

- ・研修内容：「がん疼痛治療における緩和ケアチームの現状と薬薬連携の推進に向けた取り組み」
- ・研修の期間・実施回数：7月15日
- ・研修の参加人数：30名

- ・研修内容：平成29年度医療安全管理者養成研修「医薬品の安全管理体制について」
- ・研修の期間・実施回数：7月21日
- ・研修の参加人数：約100名

- ・研修内容：愛媛リスクマネジメントセミナー「睡眠導入剤服用による転倒リスクについて」

- ・研修の期間・実施回数：8月4日

- ・研修の参加人数：63名

- ・研修内容：済生会西条病院院内医療安全セミナー「インシデント防止に対する取り組み」

- ・研修の期間・実施回数：8月8日

- ・研修の参加人数：約100名

- ・研修内容：「医薬品包装形態について考える

～誤飲防止／誤調剤防止／残薬・持参薬／抗がん剤暴露対策の視点から～」

- ・研修の期間・実施回数：8月17日

- ・研修の参加人数：111名

- ・研修内容：「高齢者における抗菌薬 TDM の注意点」

- ・研修の期間・実施回数：8月24日

- ・研修の参加人数：69名

- ・研修内容：「医療機関における RMP の利活用について」

- ・研修の期間・実施回数：10月5日

- ・研修の参加人数：45名

- ・研修内容：愛媛県医師会中予地区看護師・准看護師生涯教育講演会

「ベットサイドで役立つ薬に関する医療安全について」

- ・研修の期間・実施回数：11月16日

- ・研修の参加人数：約80名

- ・研修内容：第 2 回薬剤耐性 (AMR) 対策研修会「抗菌薬の基礎的な考え方と身近な感染症」

「抗菌薬の適正使用推進におけるプレアボイドシステムの活用」

- ・研修の期間・実施回数：10 月 7 日

- ・受講者数：26 名

- ・研修内容：第 3 回薬剤耐性 (AMR) 対策研修会「抗菌薬の基礎的な考え方と身近な感染症」

「抗菌薬の適正使用推進におけるプレアボイドシステムの活用」

- ・研修の期間・実施回数：11 月 18 日

- ・研修の参加人数：31 名

- ・研修内容：平成 29 年度愛媛県病院薬剤師会第 2 回薬薬連携セミナー

「大腸がんの代表的なレジメンとその副作用対策」

- ・研修の期間・実施回数：11 月 21 日

- ・研修の参加人数：80 名

- ・研修内容：愛媛県ジェネリック医薬品安心使用セミナー

「ジェネリック医薬品の使用にあたっての注意点について」

- ・研修の期間・実施回数：1 月 28 日

- ・研修の参加人数：19 名

- ・研修内容：愛媛県病院薬剤師会特別講演会「医療機関における RMP の利活用について」

- ・研修の期間・実施回数：3 月 8 日

- ・研修の参加人数：32 名

・研修内容：薬剤師病棟業務に関する研修

・研修の期間・実施回数：3月8日～9日

・研修の参加人数：2名

・研修内容：HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護実地研修（多部署共同）

・研修の期間・実施回数：10月23～27日、1月22～26日、2月19～23日

・研修の参加人数：2名×3

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 三浦 裕正	
管理担当者氏名	医療情報部長 石原 謙 看護部長 久保 幸 薬剤部長 田中 亮裕 放射線部長 望月 輝一 ME機器センター長 泉谷 裕則 総務課長 武智 和康 人事労務課長 久保 秀二 医事課長 齋藤 英雄 医療サービス課長 戒能 直樹 研究協力課 城戸 兼洋	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項 に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	手術部	
		看護記録	病棟	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医療情報部	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項 に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課	
		高度の医療の研修の実績	人事労務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項 に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課	
				カルテは医療情報部で一括管理(主に電子カルテ, 古いモノは一部紙カルテ)
				1患者1カルテ 病院外への持ち出しは例外を除き原則禁止。禁止にも関わらず持ち出した場合は, 申請し, 審査を受けることとなっている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME 機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部 総務課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部 総務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療サービス課 医事課 人事労務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	運営部長 赤澤 正人	
閲覧担当者氏名	総務課長 武智 和康	
閲覧の求めに応じる場所	総務課 (医学部管理棟3階)	
閲覧の手続の概要		
閲覧請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき「法人文書開示請求」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者中心の医療の実践 2. チーム医療の実践 3. 医療安全に関する組織的取組 4. インシデントの報告と情報の共有 5. 機能する医療事故防止対策 6. 適切な医療事故への対応 7. 患者相談の実施、指針等の閲覧 8. 医療安全管理教育・研修、啓発 9. 医療安全管理マニュアルの作成・更新 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理のための指針の策定及び変更に関する事 2. 医療事故防止対策の検討及び研究に関する事 3. インシデントの分析及び再発防止策の検討に関する事 4. 医療事故調査制度に対応する死亡原因判定に関する事 5. 医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関する事 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて)： <ol style="list-style-type: none"> 第1回「現場情報を活かした医療安全への取り組み」 第2回「重大事故発生時の対応とせん妄の診断と治療、対応について」 第3回「薬剤の安全使用の基本的考え方と安全な化学療法の実践」 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全ラウンド：年2回計画的に実施 2. インシデント報告後の現場ラウンド、ヒアリング (随時) 3. 改善事例発表会：年1回医療現場からの公募方式で実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>①院内感染対策に関する基本的な考え方 ②院内感染対策のための委員会その他院内の組織に関する基本的事項 ③院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ④感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ⑤院内感染発生時の対応に関する基本指針 ⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針 ⑦その他院内感染対策の推進のための基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>①院内感染の調査、予防対策に関すること ②院内感染防止の実施、監視及び指導に関する活動 ③院内感染発生時の措置に関すること ④職員の院内感染の教育に関すること ⑤その他院内感染防止に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回 手指衛生について（平成29年7月3日～平成28年7月6日 開催） 第2回 口腔は感染の窓（平成29年11月6日～平成29年11月7日 開催） 第3回 HIV感染症は慢性疾患に変わった！～当院におけるHIV/AIDSの診療の現状～ （平成30年3月6日～平成30年3月7日 開催）</p>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ICT会議において事例を検討し、問題点の分析を実施している。また、その結果を含めて院内感染対策委員会へ報告し、重要な事例については、病院運営委員会及び病院連絡協議会に報告している。 また、研修会においては、参加者アンケートから研修会の要望を調査し、次年度の研修計画の参考としている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成29年4月17日 医療安全セミナー 「処方薬について」、「病棟での医薬品の取扱いについて」、 「医薬品情報について」、「麻薬の安全使用について」 参加人数 322名</p> <p>平成29年12月18日 医療安全に関する講演会 「安全で有効な抗がん剤の使用について」、 「抗がん剤を安全に使用するために」 参加人数 314名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書として「医薬品安全管理手順書」を作成(平成19年7月1日策定)。平成29年度は、10月に部分改訂を行った。現在、平成30年度版改訂中である。</p> <p>医薬品安全管理手順書に基づく業務の実施状況は医療安全管理部と薬剤部が協働して行う年2回の医療安全ラウンドにおいて各部署の確認を行い、業務改善が必要な事項について指導し、改善を行っている。医療安全ラウンドでの各部署における確認結果は、毎月の医療安全管理部会会議、医療安全管理委員会、リスクマネージャー 会議での報告を行い、院内での情報共有を行っている。さらに、薬剤部で毎月開催している医療安全管理カンファレンスにおいても報告し、薬剤師間での情報共有を図っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>0.6%グルタルアルデヒド溶液を用いた自己心膜の組織固定、肝硬変に伴う難治性乳糜腹水に対するオクトレオチドを用いた治療など</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1. 調剤時以外での禁忌該当薬剤の確認体制</p> <p>薬剤部薬品情報管理室において、処方薬剤に対して禁忌病名が登録されている入院患者情報を抽出している。抽出された情報に基づき病棟担当薬剤師が担当医に禁忌該当薬剤に対する疑義照会を行い、当該薬剤処方継続の可否の確認、必要に応じて処方提案を行っている。また、疑義照会の結果、既に終了している病名であった場合は病名整理を依頼し、適切に医薬品が使用できるよう努めている。また、これらの病名に関する禁忌の情報は毎月医事課にも報告しており、医事課からも病名整理を依頼している。</p>	

2. 医療安全管理委員会への医薬品安全管理報告体制

医薬品安全管理体制を担っている部門（薬剤部）における医薬品の安全使用に係る業務を医療安全管理委員会へ報告している。内容は院内副作用報告件数および医薬品安全性情報報告件数、院内院外疑義照会件数、プリアボイド報告件数、未承認薬・適応外使用・禁忌該当薬剤の確認件数等である。医療安全管理委員会は医薬品安全管理体制の部門を監査し、必要に応じて意見することとしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年24回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療機器安全管理講習会 輸液ポンプ、シリンジポンプの取扱い 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 対象は中央管理機器 定期点検と日常点検及び不良対応点検 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の標準化 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>愛媛大学医学部附属病院副院長に関する規定 第3条3 病院長は、医療安全を担当する副病院長を医療法施行規則第9条の23第1項第1号に規定する医療安全官吏責任者に指名し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬品情報管理室において医薬品に関する情報 (イエローレター、ブルーレター、回収・出荷停止、適正使用のお願い、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品安全対策情報、PMDA 医療安全情報、日本医療機能評価機構医療安全情報、添付文書改訂、PMDA からの公知申請情報・適応外情報) を一元的に収集し、院内メーリングリストや院内イントラネットを利用し周知している。また、DI ニュース、プレアボイドニュース、薬事委員会に置いて決定した新規採用・削除薬一覧表 (NewFace) を作成し、院内へ周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内において未承認、適応外あるいは禁忌薬 (以後、未承認新規医薬品等) を新たに使用する場合には、未承認新規医薬品等評価部に必要書類を提出する。書類とは①未承認新規医薬品等 申請・報告書式、②患者向け説明文書、③患者同意書、④患者同意撤回書、⑤未承認新規医薬品等を使用する根拠となるエビデンス (文献等)、⑥医薬品の場合は添付文書 であり、未承認新規医薬品等評価部は申請内容に関して未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求めた上で使用の可否を決定する。なお、承認された未承認新規医薬品等に関しては定期的な実施報告書や適正使用モニタリング等の管理を行う。</p> <p>また、薬剤部において薬剤師が調剤時に当該薬品が未承認新規医薬品等に該当すると認識した場合は、担当医へ疑義照会を行い、必要に応じて妥当性の確認や処方提案を行っている。結果に関しては診療録へ記録し、必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。これらの未承認新規医薬品等に係る疑義照会情報は薬品情報管理室で収集し、院内の医療安全管理委員会へ報告する体制をとっている。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の指名の有無 (有・無) ・担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> (所属：薬剤部，職種 薬剤師 (副薬剤部長)) (所属：薬剤部，職種 薬剤師 (薬剤部長：医薬品安全管理責任者)) (所属：薬剤部，職種 薬剤師 (助教)) (所属：薬剤部，職種 薬剤師 (薬品情報管理室室長)) (所属：医療安全管理部，職種 医師 (医療機器安全管理責任者)) (所属：医療安全管理部，職種 医師 GRM) (所属：医療安全管理部，職種 薬剤師 GRM) (所属：ME 機器センター，職種 技術職員) (所属：医療サービス課，職種 事務職員) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 確認方法：各リスクマネジャーを通して確認 指導内容：説明内容，説明手順，説明方法，成立要件，説明同意書，診療録への記載， <li style="text-align: center;">責任者の配置 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 年 2 回、診療記録監査を行っており、結果をフィードバックしている。(診療記録管理委員会で報告後、カルテ記載上注意すべき点、指導すべき点等を記載医師所属診療科及び院内に周知している) 中央病歴室においても退院サマリや入院診療計画書の確認をはじめ、監査の前段階として入院診療記録の確認作業を行い、不備等あれば記載医師にメールで通知している。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従 (4) 名、専任 (1) 名、兼任 (22) 名 	

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（12）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（7）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 報告があったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関すること
2. インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関すること
3. 安全管理に関する教育・研修等の実施に関すること
4. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（12件）、及び許可件数（12件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

高難度新規医療技術を用いた医療の適正な提供を図るために、審査を行い、適否等の決定を行う。また、全ての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（55件）、及び許可件数（55件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無 (有 ・ 無)

・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等を用いた医療の適正な提供を図るために、審査を行い、適否等の決定を行う。
また、全ての症例について、提供された医療の安全性、適正性を定期的に評価する。有害事象発生時及び患者が死亡した場合は、当該診療科から報告を受け、適切な処置や対策を講ずる。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年155件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年38件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

患者影響レベル3b以上のインシデントの分析及び再発防止策の検討。死亡事例検討会の結果報告確認

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：滋賀医科大学医学部附属病院) ・無)

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：弘前大学医学部附属病院) ・無)

・技術的助言の実施状況

レポートの既読・未読チェックに関しては、電子カルテのシステムにレポートを読んだら既読のボタンがあり、それによってRISでチェックが出来るが、HISでは既読・未読のチェックがなかなか出来ないとの指摘があり、チェックリストを抽出できるようシステム改修を行っている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合診療サポートセンターが患者からの相談窓口となっている。個室の面談室9室、オープンな相談ブースを4ヶ所設置し、対応している。中でも、医療安全に係る相談については、総合診療サポートセンターのメディエーターが主に対応し、医療サービス課・医療安全管理部が連携できる体制をとっている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 新規採用者へのオリエンテーション
2. 医療安全に関する講演会（3回）
3. 医療安全セミナー（3回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

平成 29 年度 特定機能病院管理者研修受講済

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、
高難度新規医療技術評価部長、未承認新規医薬品等評価部長 6名

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師免許を有している者 ・ 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 ・ 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 ・ 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 愛媛大学HPに掲載
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 愛媛大学HPに掲載 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
大賀水田生	理事(企画・財務・広報)	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
満田 憲昭	医学系研究科長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
羽藤 直人	医学専攻長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
日浅 陽一	附属病院副病院長		学長が指名する副病院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
久保 幸	附属病院看護部長		役職指定	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
土居 英雄	株式会社愛媛新聞社代表取締役社長		国立大学法人愛媛大学経営協議会委員	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
福富 治	株式会社愛媛銀行常務取締役		国立大学法人愛媛大学経営協議会委員	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
横山 めい	株式会社エス・ピー・シー常務取締役		国立大学法人愛媛大学経営協議会委員	有 <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 運営方針, 中期計画, 予算及び決算その他病院の運営に関する重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 愛媛大学医学部内職員専用サイトに資料・議事要旨を掲載 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法 愛媛大学HPに掲載 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有・(無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
三浦 裕正	○	医師	病院長
杉山 隆		医師	副病院長(総務・診療担当)
國枝 武治		医師	副病院長(病院経営担当)
相引 眞幸		医師	副病院長(医療安全・危機管理担当)
日浅 陽一		医師	副病院長(地域連携・地域医療再生担当)
久保 幸		看護師	副病院長(患者サービス担当)
今井 祐記		医師	副病院長(橋渡し研究推進担当)
竹中 克斗		医師	第一内科長
山口 修		医師	第二内科長
大八木 保政		医師	老年・神経内科長
大澤 春彦		医師	糖尿病内科・臨床検査医学 科長
永井 将弘		医師	薬物療法・神経内科長
川本 龍一		医師	総合診療科長
上野 修一		医師	精神科長
石井 榮一		医師	小児科長
渡部 祐司		医師	消化器腫瘍外科長

高田 泰次		医師	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長
泉谷 裕則		医師	心臓血管・呼吸器外科長
今井 浩		医師	整形外科長
佐山 浩二		医師	皮膚科長
中岡 啓喜		医師	形成外科長
雑賀 隆史		医師	泌尿器科長
白石 敦		医師	眼科長
羽藤 直人		医師	耳鼻咽喉科長
望月 輝一		医師	放射線科長
萬家 俊博		医師	麻酔科蘇生科長
中城 公一		歯科医師	歯科口腔外科長
羽藤 高明		医師	輸血部・細胞治療部長
土手 健太郎		医師	集中治療部長
北澤 理子		医師	病理部長
石原 謙		医師	医療情報部長
池田 宜央		医師	光学医療診療部長
菊川 忠彦		医師	透析治療部長
渡邊 英昭		医師	脳卒中センター長
池田 俊太郎		医師	循環器病センター長
利光 久美子		管理栄養士	栄養部長
伊賀瀬 道也		医師	抗加齢・予防医療センター長
田内 久道		医師	感染制御部長
薬師神 芳洋		医師	腫瘍センター長
森野 忠夫		医師	脊椎センター長
宮川 正男		医師	PETセンター長
佐野 由文		医師	呼吸器センター長
打田 俊司		医師	小児総合医療センター長
原 祐子		医師	屈折矯正センター長
亀井 義明		医師	乳腺センター長
岡 靖哲		医師	睡眠医療センター長
本田 弘文		診療放射線技師	放射線治療品質保証室長

堀内 史枝		医師	子どものこころセンター長
田中 守		薬剤師	未承認新規医薬品等評価部長
田中 亮裕		薬剤師	薬剤部長
宮本 仁志		臨床検査技師	診療支援部長
高田 清式		医師	総合臨床研修センター長
今村 健志		医師	先端医療創生センター長
赤澤 正人		事務職員	医学部運営部長
満田 憲昭		医師	病院長が認める者(医学系研究科長)
松浦 文三		医師	病院長が認める者

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

- ・ 公表の方法
愛媛大学HPに掲載

- ・ 規程の主な内容
人事権限・予算執行権限

- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割

【職名】 副病院長 (総務・診療担当/病院経営担当/医療安全・危機管理担当/地域連携・地域医療再生担当/患者サービス担当/橋渡し研究推進担当)

【役割】 病院長の職務を補佐し、病院長から指示された重要な事項を処理する。

【職名】 (副病院長のうち総務担当)

【役割】 病院長が不在又は事故があるときは、その職務を代理する。

【職名】 (副病院長のうち医療安全担当)

【役割】 医療安全管理責任者として医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
厚労省委託事業の特定機能病院管理者養成研修に5名参加し、国立大学附属病院長会議等企画の病院経営次世代リーダー養成塾に2名参加した等、各種研修の受講を促している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	有・無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 次の事項について審議する。</p> <p>(1) 病院の医療安全に係る業務執行状況の監査に関すること。</p> <p>(2) 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 公表の方法： 愛媛大学HPに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
西村 誠明	愛媛県立中央 病院・院長	○	医療に係る安全 管理に関する 識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
大熊 伸定	弁護士		法律に関する識 見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
河野 和博	愛媛県難病等 患者団体連絡 協議会 愛媛県腎臓病 患者連絡協議 会・事務局長		医療を受ける者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
監査室を設置し、監事及び会計監査人と連携して監査を実施している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

- ・ 公表の方法

愛媛大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法に基づき、役員会・経営協議会を設置し、病院の業務・管理運営及び経営に関する重要事項を審議・報告している。 会議体の実施状況（役員会 H29年度 24回 経営協議会 H29年度 4回 ） 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） （役員会 H29年度 15回 経営協議会 H29年度 4回 ） 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） 公表の方法 愛媛大学HPに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 愛媛大学教職員向けポータルサイト内に「相談窓口」のページを設け、様々な事案毎の相談窓口及び連絡先等を掲載している。その中に、医療安全管理の適正な実施に関する情報提供を受け付ける相談窓口の設置について掲載しており、加えて、本件について事務連絡メールを全教職員に送付し周知を図っている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>病院機能評価：公益財団法人日本医療機能評価機構 2016年10月18日～10月19日</p> <p>* 認定期間 2017年1月21日～2022年1月20日</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院の目的・目標、果たすべき役割及び実績等をまとめた冊子「医学部／附属病院概要」を毎年作成・発行するとともに、電子BOOKとしてオリジナルホームページにも掲載している。</p> <p>また、DPCデータによる病院指標も公表し、当院の特徴や急性期医療の現状を理解していただくよう情報発信に務めている。</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>中央診療施設において、複数診療科等を組み合わせたセンターによる診察を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 周産母子センター（産婦人科、小児科）2. 小児医療総合センター（小児科、心臓血管・呼吸器外科）3. 呼吸器センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）	

4. 脊椎センター（整形外科、脳神経外科）
5. 睡眠センター（第二内科、耳鼻咽喉科）
6. 循環器病センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）
7. 緩和ケアセンター（腫瘍センター、麻酔科蘇生科）
8. 認知症疾患医療センター（精神科、薬物療法・神経内科、老年・神経内科）
9. 子どものこころセンター（精神科、小児科）

等